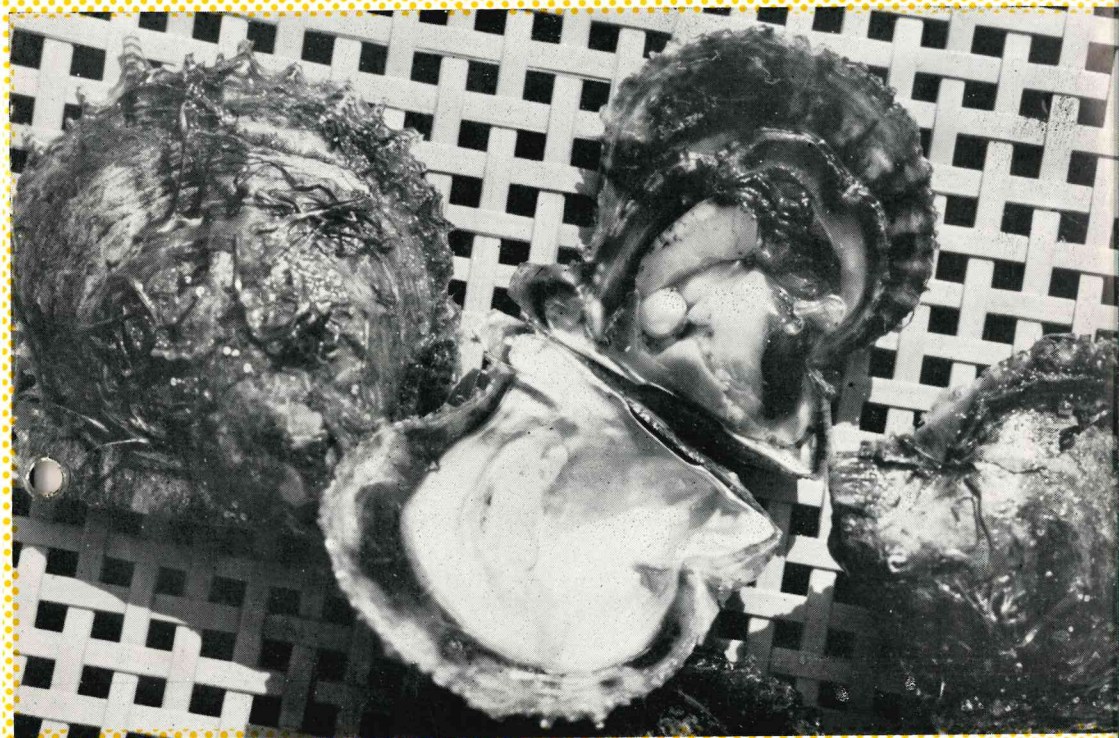


真 珠 技 術 研 究 会

會 報

40 号



第 1 卷 第 1 号

(June, 1962)

目 次

1. 真珠技術研究会々報の発刊にあたって……御木本美隆… 1
2. ヨークレシチンの使用と真珠の品質……高山 活夫… 2
町井 昭
3. 真珠レントゲンでも発生する
 恐しい放射線障害について……高橋 明… 9
4. アコヤ貝の斃死と水温……辻 健…12
5. 真珠貝および真珠の技術関係文献目録……山口 正男…16

× × × × × ×

全真連だより	57
(イ) 第一回真珠技術研究会	57
(ロ) 全国真珠養殖漁業協同組合連合会の会員及び役員	59
業界ニュース	69
養殖場めぐり 佐藤養殖場の巻	75
雑 報	伊原 良作…81

表紙写真はアコヤガイと真珠

真珠技術研究会会報の発刊に当って



昭和32年2月、皆さんの熱心な御支援によって発足致しました真珠研究会伊勢部会は、全国真珠養殖漁業協同組合連合会の設立に伴い昭和36年度末をもつて発展的に解散し、その事業につきましては全真連がこれを継承する事になり、去る5月18日第1回技術研究会を開催し、今回技術研究会会報第1号を発刊する事に致しました。

真珠事業に限らずいずれの産業にとりましてもその発展の基礎は技術の革新向上にあると信じます。殊に曲り角に來ている真珠事業にとつては今日程技術の向上が要請されている時はないと存じます。

従來真珠業界にはやゝもするとお互に何かについて秘密にする傾向が強くこの事が如何に養殖技術の発達を阻害したかは既に皆さんが御承知のとおりであります。事業の性格柄とは云え誠に残念な事でした。真珠養殖にとつて秘密主義の時代はとつくに過ぎました。皆さんの永年に亘る尊い研究の結果は元より研究機関の試験結果につきましてもこの技術研究会を中心にしてお互に発表し、検討し合つて技術革新向上の場として大いに活用して頂きたいと存じます。

皆さんの技術研究会並びに会報に寄せられる期待の大きい事を自覚し、今後は全国的な見地で更に拡充強化して行きたいと考えてあります。どうかなお一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

全国真珠養殖漁業協同組合連合会

会 長 御 木 本 美 隆

ヨークレシチンの使用と真珠の品質

町 井 昭・高山 活夫*

(国立真珠研究所)

浜揚げされる真珠の品質は多くの条件に左右されるが、品質のよいものをつくるための一つの方法として、養殖過程で薬品を使う試みも一部の人に賞用されてきた。しかしこの方法では、だれでも常に一定の良結果を得ることはむずかしいようで、現状では一部の人を除いては、薬品処理にあまり大きな期待をかけるのは無理のようである。今回試験したヨークレシチンは卵黄油中にあるリンを含んだ複合脂質の一種であるレシチンを有効成分としたもので、食品、化粧品及び薬品として広く使われている。体内でのレシチンの作用は詳細は不明の点もあるが、動物では肝臓や神経に多く、卵黄中には特に多い。このように代謝のさかんな部分に多く含まれているレシチンを真珠貝に使用した場合、真珠質の分泌作用をさかんにさせることが出来るであろう。筆者らはこれを使って養殖試験を行ない以下のような結果を得た。試験は1961年8月に小だまについて実施したものであるが、レシチン処理を行なつたものは、巻き、色共に良好であつたといえる。ピース処理群では、シミ、シラの多い傾向がうかがわれたが、この場合、浜揚げされる真珠は厚巻きである上に色はホワイト系のものが増し、良質のものが多かつたので、シミ、キズによる損失をおぎない得たものと思われる。このような成績が常に得られるとは限らないが、使い方によつては将来性のある薬品と考えられるので、ここに記して参考に供したい。

材料と試験方法

試験群はレシチンを注射したもの及びレシチン処理を施したピースを用いて作業を行なつたもの並びに対照群に大別した。

試験群の内訳	貝数
1. 1 回 注 射	80
2. 2 回 〃	80
3. 3 回 〃	80
4. ピ ー ス 処 理	80

* 現在愛媛真珠株式会社

5. ピース処理及び注射1回 40
6. 対 照 80
7. 真珠袋形成観察 30

母 貝 : 英虞湾産3年生アコヤガイ120掛

核 : 直径5.14mm貝殻核とパラフィン核

作業方法 : 同時づけ、フクロ1個入

時 期 : 作業日 1961年8月4日

浜揚げ 同 12月23日

場 所 : 三重県英虞湾多徳島、真珠研究所臨海実験所前、2~5m層

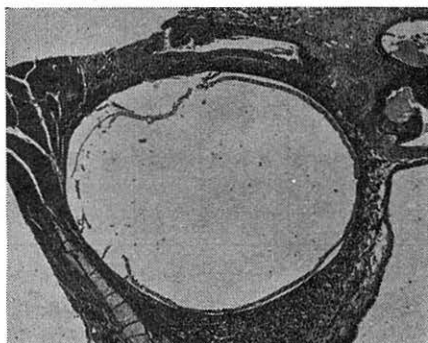
作 業 員 : 1名

か ご : 平かご、40個入

備考 8月4日から9月15日まで5m層、9月15日から19日まで台風のため海底に避難、9月19日から12月23日まで2m層に垂下した。貝そうじは9月25日に行ない、この際かごを交換した。

注射液の作り方と使用法 : ヨークレシチン※ 0.5gをとり、海水約5ccを加え、よく振りまぜ、さらに海水を加え全量を10ccとし、またよく振りまぜた。この液を常法により作業した貝の閉殻筋に毎回1個体当たり0.1ccずつ注射した。すなわち1回の注射によつて受けるレシチンの量は1個体当たり5mgである。注射した時期は第1回は作業後22日の8月26日、第2回は9月25日、第3回は10月25日である。

ピース処理液の作り方と使用法 : ヨークレシチン1gをとり、約5ccの海水を加えてよく振りまぜ、さらに海水を加えて全量を10ccとし、再びよく振りまぜた。この液を通常の方法により作つたマナイタ(細胞台)上のピースの上に流し、室温に約30~40分間放置した。ピースは乾かないようにこ



第1図 稜柱層の分泌されていた真珠袋の断面1961年8月4日作業、同26日10%ホルマリンで固定、トリクロル酢酸5%水溶液で脱灰、ハイデンハイン・鉄ヘマトキシリン・ライトグリーン染色。×9

※ 日本レシチン化学工業株式会社製、商品名パールチン

の間2回レシチン液を追加した。この液約10ccを80個体分の作業（すなわち80片のピース）に使用した※。ピース処理群は上のような処理を施したピースを用いて通常の方法によりたま入れ作業を行つた。またレシチン処理をしたピースを用いて作業した後、さらに1回注射を行つた群も作つた。真珠袋形成及び初期分泌を観察するための材料は、レシチン処理を施したピース及びパラフィン核を用いて作業したもので、作業後5日と22日に手術部位をとり出し、10%ホルマリン緩衝液（PH7.0）で固定した。22日後のものは固定後、トリクロル酢酸5%水溶液で脱灰した。材料はいずれもパラフィン切片作製後、ハイデンハイン・鉄ヘマトキシリンーライトグリーン染色及びハイデンハイン・アザン染色を施し観察した。実験方法を一括して示すと第1表の通りとなる。

浜揚げされた真珠の測定結果の統計処理は、当所西飯保氏の御支援によつた。ここに感謝の意を表する。

第1表 各試験群の養殖方法

	たま入 作 業 1961年 8月 4日	8. 9	第1回 注 射 8. 26	←避難→ 9. 15 9. 19		第2回 注 射 9. 25	第3回 注 射 10. 25	浜揚げ 1961年 12月23日
注射1回群	+		+	+	+			+
2 回	+		+	+	+	+		+
3 回	+		+	+	+	+	+	+
ピース処理群	+			+	+			+
ピース処理 と注射1回	+		+	+	+			+
対 照 群	+			+	+			+
真珠袋観察群	+	固定	固 定					
備 考				台	風	貝そうじ かご交換		

←——5m層——→ ←海底→ ←——2m層——→

＋は処置の行なわれたことを示す。

結 果

浜揚げされた真珠の直径及び色の出現分布は第2表に示す通りであつた。

※ この液量では薬液はすい分余つた。実際に使うときは $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{3}$ の液量でよいと思う。

第2表 浜揚げだまの直径と色の出現分布

	たまの 直径mm	色					歩 留 %	死亡数
		ホワイト ピンク個	シルバー	イエロー	ブルー シラダマ	計 個		
対 照	5.683	12(1)	11	36	7(1)	66	82.5	5
ピース処理	5.867	17(7)	12	18	16(3)	63	88.7	
ピース処理 と注射1回	5.827	16(8)	2	8	11(5)	37	92.5	2
注 射 1 回	5.773	2(2)	19	29	18(4)	68	85	6
注 射 2 回	5.806	10(5)	7	32	7(1)	56	70	8
注 射 3 回	5.717	7(3)	25	13	5(1)	50	62.5	20
計		64(26)	76	136	64(15)	340		
備 考		()内は ピンクだ まの個数			()内は シラだま の個数		浜揚げだま数 使用した核数 $\times 100$	

真珠袋形成及び初期分泌物の観察

観察した真珠袋の状態は※ 第3表の通りであつた。

第3表 作業後の日数と真珠袋の状態

	第1期	第2期	第3期	第4期
作業後5日	0	5	3	0
〃 22日	0	0	0	8

数字は観察された真珠袋の数

作業後5日：第2期のものが5個体、第3期のものが3個体みられた。第2期のもののうち3個体はすでにピース上皮細胞は核面をほとんどおおつており、第3期に近い状態であつた。いずれの真珠袋においてもピース自体の伸長が著しく、その断面の長さはレシチン処理をしないものの約1.5倍に達した。ピースの上皮細胞は著しく形態がかわつており、アメーバ状となり、基底部から離れているものが多い。形成されつつある真珠袋ないしは形成直後

※ 真珠袋の状態は次の1～4期にわけられる。

第1期. ピース及び手術部位は著しい変化がみられない。

第2期. ピースの断面の概形はみかづき状となり真珠袋は形成されつつある。

第3期. ピースの上皮細胞は核面をおおい真珠袋が形成される。

第4期. 初期分泌物の沈着がみられる。

のものでは、ピースから離れた部位ほどへん平に近い細胞がみられたが、ちょうどピースの反対側では、不規則な形態のものがみられた。真珠袋と核面の間にみられる遊走細胞の数は通常の場合にくらべ特に多いとはいえない。ピース自体及びそれからひろがった真珠袋上皮細胞は非常に染色性を増していた。

作業後22日：すべての真珠袋はすでに第4期に入っていた。すなわち、いずれの真珠袋においても、殻皮及び稜柱層の沈着がみられた。初期に分泌される殻皮の量は通常の場合より少し多い（第4表）。

第4表 初期分泌物の種類と量

真珠袋の別 分泌物	A	B	C	D	E	F	G	H
稜柱層の厚さ μ	50	20	30	20	40	80	50	20
殻皮		+	++ ++	++	++	+	+	++ +

この時期には、はつきりした真珠層の沈着は認められなかつた。真珠袋上皮細胞は厚みのある円柱状からへん平なものに至るまで種々の形態のものがみられたが、 50μ 以上に達する著しく厚みのある円柱上皮は認められなかつた。有機質を分泌している真珠袋上皮も割合に厚みのないものが多い。核面全体が円柱上皮によりおおわれているものは見られなかつたが、核面のほぼ半分が円柱上皮により囲まれているものが1個体あつた。稜柱層の沈着している部分の真珠袋上皮においても、粘液細胞の特に多いものは認められなかつた。稜柱層を分泌する真珠袋としては厚みのないものに属し、形態はむしろ真珠層のそれに近かつた。核面に沈着している稜柱層は 80μ に達するものもあり、その沈着量を厚さで測定した結果は第4表の通りで、通常の場合の約1.5倍であつた。

まとめと考察

ヨークレシチンの真珠の品質に及ぼす影響をしらべるために、注射及びピース処理を施して養殖試験を行つた。また真珠袋の形成及び初期分泌について組織学的観察を行つた。今回の試験によると、注射の場合とピース処理による場合では、レシチンの効果の現われ方にやや違いが認められた。結果の概要は次の通りとなつた。

1) 注射群は3回を除き（すなわち、注射1、2回群では）対照群より厚巻きて

あつた。対照及び注射1、2回群ではイエロー系の出現率が高かつた。しかしこれら3群の間ではイエローの出現率に差は認められなかつた。

- 2) ピース処理を行つたところ、ホワイト、ピンク系が他の群より多くなりイエロー系が少なくなつた。また巻きは対照群及び3回注射のものより厚くなつた。
- 3) ピースにレシチン処理を施しても真珠袋形成は普通の場合よりあまり速くならなかつた。1~5)
- 4) 初期分泌物として稜柱層が厚く分泌された。また、殻皮層の分泌もやや多いようであつた。
- 5) 光沢は注射3回のものを除き、レシチン処理群の方が対照群よりよかつた。

すなわち 1) ではレシチン注射により貝体の活動力全般がさかんになつた結果、分泌量が増したものと考えられ、2) はレシチンがピース自体及びそれから形成される真珠袋に直接作用した結果によると推定する。注射3回群は対照よりもイエロー系が少なかつたが、巻きは差が認められなかつた。また3回注射群では死亡数が他のいずれの群よりも多かつたことは、注射の量や回数について考慮を払わなければならないことを示している。

組織標本の観察によると、ピース処理群では初期における有機質の沈着は全個体に認められ、稜柱層は通常の場合に比べて多く分泌され、かつその沈着状態は核面に大体一様に沈着していた(第1図)。この初期において比較的多量の稜柱層の分泌があり6)、その後順調に真珠袋の機能が変わり、やがて真珠層の分泌されるに至るということが、ピース処理群のたまの特徴—ピンク、ホワイト系が多く、その上厚巻きである—をもたらす原因の一つになつたのであろうと考える。実験群のうちで注射1、2回群はイエロー系が多かつたが、その出現率は普通に作業を行つた対照群と変りがない。すなわち注射によつて黄色いたまが多くでることはなかつた。しかし、1) 注射3回群は試験群中で最も死亡数が多かつた。2) ピース処理群ではブルー系が多かつた。すなわちシミの多いというあまり好ましくない面もうかがわれた。このことは、注射量や回数、ピース処理法等使用法についてなお改善の余地のあることを示すものである。体内に入つたヨークレシチンの成分中の何がどのように生体に働きかけ、真珠質の分泌をさかんにするか等については、現在のところ詳しいことはよくわかつていない。

文 献

- 1) 青 木 駿 1956. 国立真珠研報 1 : 41—46.
- 2) Kawakami. I. K. 1952. Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ. Ser. E. (Biol.), 1 : 83—88.
- 3) 1953. Ann. Zool. Jap. 26 : 217—223.
- 4) 1954. Ann. Zool. Jap. 27 : 215—219.
- 5) 町井 昭・中原 皓 1957. 国立真珠研報 2 : 107—112.
- 6) 和 田 浩 爾 1962. 日本水産学会昭和37年度大会



真珠レントゲンでも発生する

恐ろしい放射線障害について

高 橋 明

(三重労働基準局)

1. 放射線の危険性

放射線は物質を透過する性質が非常に強く、しかも我々の五感のいずれによつても感知する事ができないものであるが、放射線が人体の組織の中に入ると、その電離作用の為に機能的又は形態的ないろいろの悪影響を受ける。一時に大量の放射線を被爆すれば勿論、少量でも被爆を長時間繰り返していると、造血臓器の障害や、ガンの発生等生命にかかわる障害が発生する。又、放射線による障害は、放射線を受けた人のみでなく、その子孫にまで悪影響を及ぼす遺伝的障害も発生するものである。

放射線障害の主なものをまとめると次表のとおりで、放射線による障害には測り知れざるものがあり、人体が放射線を受ける事を極力避けなければならない事は、言うまでもない事である。

放射線障害

- イ 表在的障害（特に皮膚障害）
- ロ 全身的障害（特に血液、造血臓器の障害）
- ハ ガ ン
- ニ 遺伝的障害
- ホ そ の 他（不妊症、寿命の短縮等）

2. 電離放射線障害防止規則について

放射線による障害は、古くから主として医療におけるX線、ラジウム等によるものが知られているが、最近では、X線の工業利用や原子力の開発等に伴い、その危険が増大し、又、独特の放射線による障害が発生している現状により、広く労働の場における放射線障害を防止する為、「電離放射線障害防止規則」が制定され、昭和34年7月1日から施行されている。

放射線による障害防止の基本的な考え方は、

イ 1週300ミリレムをもつて最大許容線量とする。

ロ 1週に30ミリレムを超えて放射線を受ける労働者については、個別的な健康管理を実施する。

という事である。

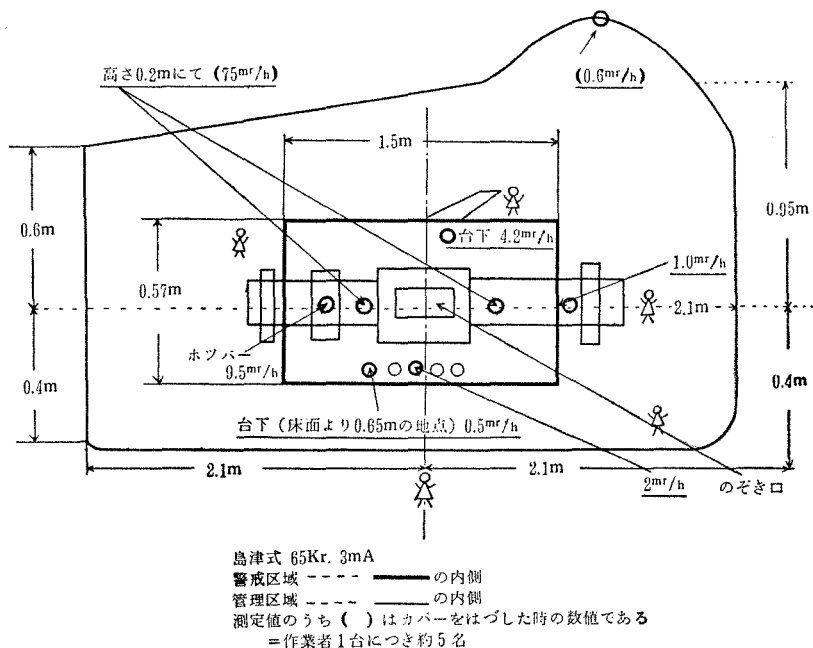
次に事業場において、放射線を取り扱う場合に、この最大許容線量を超えて放射線を受けさせない為の最も重要な措置は、次の2点である。

1. 警戒区域（労働者がそこで作業をしていたら最大許容線量を超えて放射線を受ける恐れがある区域）を設定する事。

作業の性質上、止むを得ず警戒区域内で作業をさせる場合には、1週間に受ける放射線量が300ミリレム（手足等については、1500ミリレム）を超えないように、保護具の使用や、遠隔操作や、作業量の勘案等の措置を講じなければならない。

2. 管理区域（1週間に30ミリレムを超えて放射線を受ける恐れのある区域）を定めて、労働者に解りやすいように明示する事。

この管理区域内で作業をする労働者については、フィルムバツジ等によつ



て被爆線量を明らかにすると共に、障害を受けているか否かの健康診断を、3ヶ月に1回以上実施しなければならない。

3. 真珠用レントゲンの測定結果

去る37年1月下旬に、三重県水産試験場に設置されている、島津真珠用透視レントゲン（ベルトコンベア式）について測定を実施したが、その結果は別図のとおりで、警戒区域、管理区域を次のように設定する必要がある、正しい使い方をしないと放射線による障害発生の恐れがある事が判明した。

イ 警戒区域は、機械の作業台上

ロ 管理区域は、機械の中心より左右については、 $2.1m$ 、前後については、 $0.4m \sim 0.95m$ の線で囲まれる範囲

特に、真珠貝投入口では、毎時9.5ミリレントゲンで、最も危険性が認められるので、投入口に手を入れるような作業方法の場合には、必ず保護手袋を使用する必要がある。又、機械のカバーを脱した場合には、放射線量が増大するので、X線を照射する際には、必ずカバーをつけて、定格内で正しい操作をしなければならない。



アコヤ貝の斃死と水温

辻

健

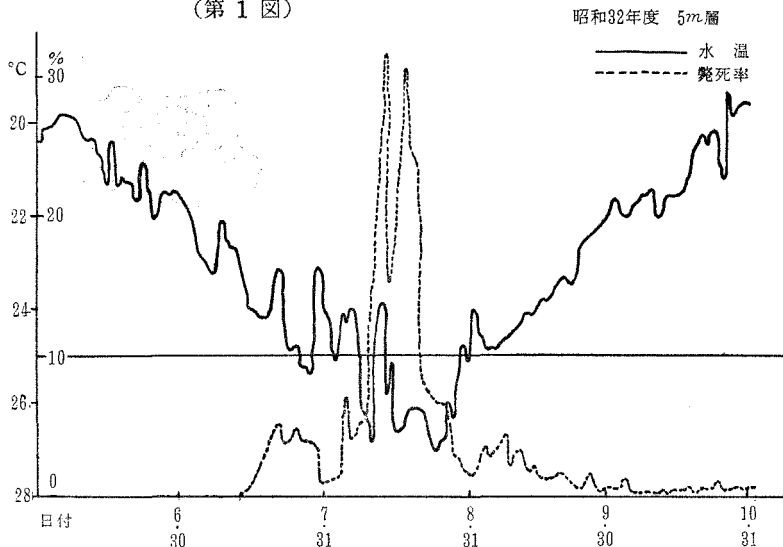
(堀口養殖真珠株式会社)

環境要因の一つである水温。特に夏期高水温時には養生中の作業介の養生垂下層が何 m になれば斃死が開始めるか。昭和32年度よりの資料を中心に考察してみました(養生垂下層は5 m)。観測に協力された堀口養殖真珠KKの諸氏に深謝致します。

当養殖場(三重県度会郡南島町神前浦)の養生筏の水深は約10~15 m で、母介の仕立は卵抜籠で卵抜をして、介立は別に行わず、開口器で口をあけ、木栓をして、それに施術員が入核をします。入核後は、直ちに竹製の養生籠〔36 cm ×36 cm ×7 cm 〕に縦10列、横に10列の計100個を足系がつきやすく並べて、金網籠に入れ、養生垂下層を5 m として、10日~15日間で沖出を行う。

母介は主に3年介の100掛前後のものを使用、時には4年介を使用する事もあります。サイズは6 mm ~7 mm の2個入で、観測は毎日正午に行い、斃死率は全施術員の平均値を出した。

(第1図)

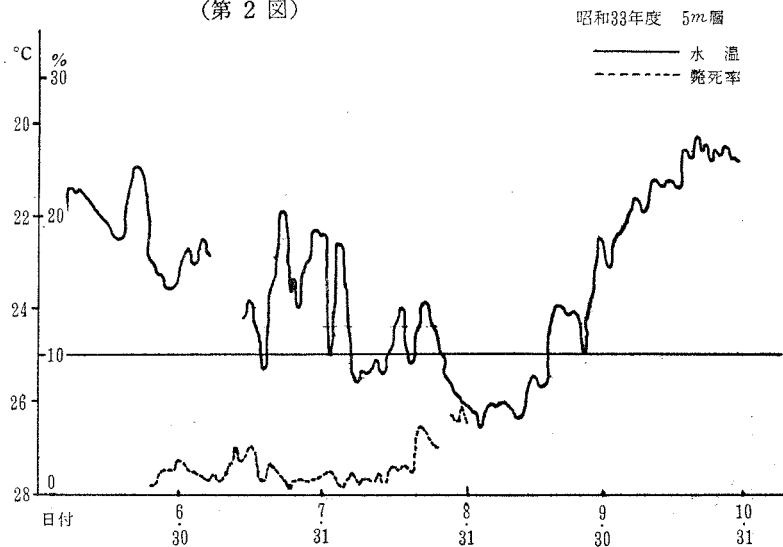


(イ) 32年度 斃死は8月10日より多くなり、8月26日迄続き、最高が8月11日から21日迄で特に多く、27日より少なくなっている。

8月11日から21日迄の5m層の水温の平均は26.3°C、最高水温は27°Cで、最低水温は25.1°Cとなり、斃死率は8月11日から21日迄の平均は25.0%、最高は31.4%で最低は14.1%となつている。

第1回目の25°Cの出現により、斃死率も上昇し始め、25°Cの連続出現ともなれば10%以上の斃死が見られる。25°C以上の高水温が続けば斃死率も高くなり、25°C以下になると同時に斃死も少なくなっている。

(第2図)



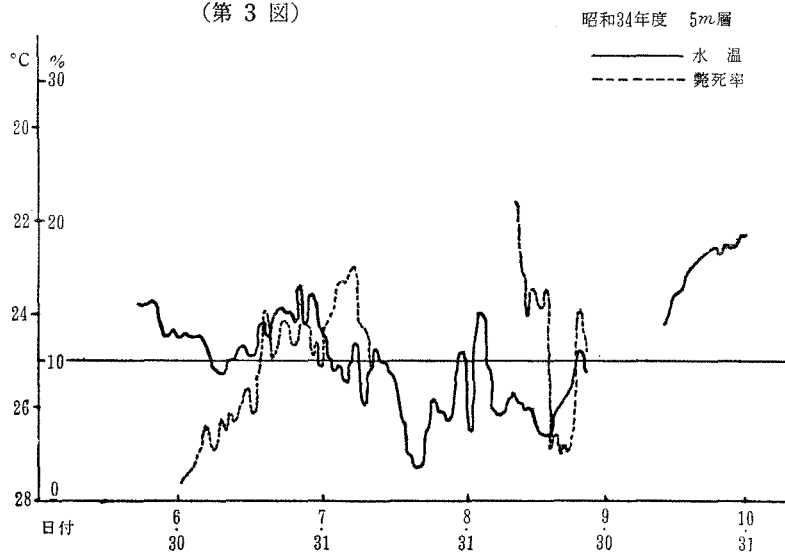
(ロ) 33年度 34年度の伊勢湾台風時に、資料を紛失し、充分な記録がなく、参考として記載しました。但し斃死率は8月30日迄(メモでは、9月5日から15日の11日間の斃死が高かつた事を加えておきます)。

(ハ) 34年度 8月10日より9月10日迄の一ヶ月は休業(養殖業者間の協定)。又9月26日は伊勢湾台風の為休止。

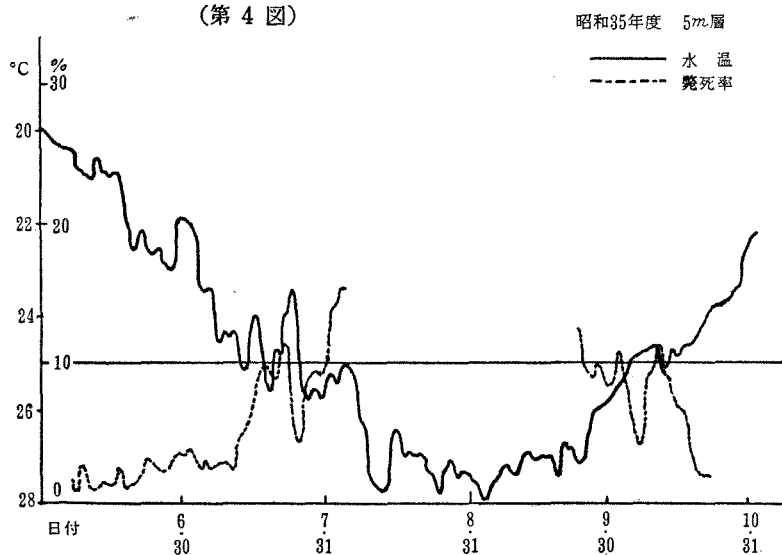
34年度は一般的に水温が高く、斃死率も平均すれば高かつたように思われる。第1回の25°Cの出現により斃死率も上昇し、24°C上では10%以上の斃死が出ている。

(ニ) 35年度 第1回の25°Cの出現により、斃死率も上昇し、8月上旬より9月下旬迄の約50日間施術を中止する(斃死が多い為)。

(第 3 図)



(第 4 図)



25°C以上の高水温の状態が1ヶ月以上も続いた。9月23日より試験的に施術を行つたが、25°Cが出現している期間は、10%以上の斃死が見られた。

以上の事より当社神前漁場では、24°Cから25°Cが養生期間中の臨界水温と察せられる。24°Cが出始めると、大体10日前後には第1回目の25°Cの出現が見られる。25°Cが連続的に続くと、斃死率も10%以上になる時がある。24°Cが出始めると施術を中止し、水温の低下を待つ。年により30日から60日間の期間が続く為、卵抜中の母介の処理には十分な注意が必要である。

斃死率の高い時期に入核を続行しても、採取時（品質並びに歩留り）には悪い結果が生じている事は各養殖業者間でも良く知られている。施術時期を前期と後期に二分して、斃死の少ない時期を検討して、前期には集中的に施術を行い、後期には整理する程度に行えば、採取時には良結果を得られる事と信じます。

上述の事より施術時期の決定という事が真珠貝の養生期間の斃死に非常に大きな比重を占めて来ると思われます。各養殖場により立地条件、環境要因等に多少の違いはあるが、類似している所も多いと思われます。

初夏から真夏にかけて水温も上昇し、斃死も又多くなつて来る事と思われませんが、何かと参考になればと稿を進めました。



真珠貝および真珠の技術関係文献目録

(1946年—1962年4月)

山 口 正 男

(農学博士 長崎県水産試験場)

凡 例

1. 対 照

この目録は1946年から1962年4月までに公表された真珠貝および真珠の技術に関する文献を収録したものである。

2. 配 列

著者名を標題としてアルファベット順に配列し、同著者名中では年代順に配列した。なお共著の場合は、最初に記載された著者名を標題とした。

3. 記 載 事 項

著者名、発行年、論文標題、所載刊行物名、巻、号、頁の順に記載した。

例、阿部 功 1959. 伊豆方面の真珠養殖を見て (折戸、三津)

著者名	発行年	論 文 標 題
会 報	4	(8.9) : 8—11
所載刊行物名	巻	号 頁

4. 刊行物略号

Annot. Zool. Jap. Annotationes Zoologicae Japonenses.

動 雑 日本動物学雑誌

遺 雑 日本遺伝学雑誌

J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. VI. Zool. Journal of the Faculty of
Science, Hokkaido University. Series VI (Zoology)

会 報 真珠研究会伊勢部会報

貝 雑 日本貝類学雑誌

研 報……………研 究 報 告
 Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ. Ser. E (Biol) ……Memoirs of the Faculty
 of Science, Kyushu University. Series E. (Biology)
 Mem. Coll. Sci. Univ Kyoto Ser. B.……Memoirs of the College of Scie-
 nce University of kyoto, Series B.
 日 化 雜……………日本化学雑誌
 日 本 真 研 報……………日本真珠研究所報告
 農 化 会 誌……………日本農芸化学会誌
 日水会誌 (Bull. Jap. Soc. Sci. Fish.) ……日本水産学会誌
 Publ. Seto Mar. Biol. Lab.……Publication of Seto Marine Biological La-
 boratoy.
 Rep. Fac. Fish. Pref. Univ. Mie……Report Faculty of Fisheries Prefec-
 tural University of Mie
 真 研……………真 珠 の 研 究
 真 研 報……………国立真珠研究所報告
 水 試 事 報……………水産試験場事業報告
 水 指 事 報……………水産指導所事業報告
 水 講 研 報……………水産講習所研究報告
 水 増……………水 産 増 殖

〔A〕

阿 部 功 1959. 伊豆方面の真珠養殖を見て (折戸、三津) 会報 4
 (8、9) ; 8—11
 阿井 敬雄 原田雄四郎
 1958. 母貝及び細胞の相違による真珠の出現状況 静岡水
 試研究課報告養殖部第2号 ; 14—18
 1958. 真珠養殖試験地観測結果 全上 : 19—24
 愛知県水産試験場 1960. 真珠養殖試験 愛知水試事業報告 (昭和33年度)
 青 木 駿 1956. 真珠袋形成に関する研究、特に秋と初冬に作業を行
 った場合について 真研報 1 : 41—46
 1957. 真珠養殖における挿核施術に関する研究 I 挿入さ
 れた核が収足筋に接した場合について 真研報 2
 113—118

- 青 木 駿
1957. 白珠の原因について 会報 4 : 20—23
1957. 農業の真珠貝に対する影響 会報 1 : 16—19
1957. 真珠養殖における挿核施術に関する研究 II 外とう膜片の外表面（貝殻面）が核に接着しなかつた場合について 真研報 3 : 218—228
1958. 異常真珠について 会報 8 : 24—30
1959. 真珠養殖におけるそう核施術に関する研究 III 外套膜縁、外套縁膜、外套腔各部よりそれぞれ切り取られたピースを用いて施術を行なつた場合について 真研報 5 : 503—515
1959. 全上 IV 真珠の形質とそれが形成された位置との関連性 真研報 5 : 516—540
1961. 全上 V 挿入された核の周辺に間隙が生じた際の変化 真研報 6 : 647—656
1961. キズ珠に含まれる遊走細胞について 会報 5 (6—12) : 1—9
1962. 良質真珠生産のための二、三の研究 会報 39 : 1—30
- 足 利 千 枝
1948. アコヤガイの生化学的研究 第 1 報 生理生態 2 (3.4) : 160—167
1949. 全上 第 2 報 貯蔵による貝肉グリコーゲン量の変化 日農化会誌 23 (2) : 63—65
1949. 全上 第 3 報 貝肉の部位別並に雌雄別によるグリコーゲンの含有量 日農化会誌 23 (2) : 65—68
1951. 全上 第 4 報 組織別並に雌雄別による貝肉成分 日農化会誌 24 (9) : 432—435
1951. 全上 第 5 報 貝肉中の不飽和化合物並にステロール量の季節的变化 日農化会誌 24 (9) : 436—438
1957. 全上 第 6 報 ステロールの分離並に化学構造について 日農化会誌 31 (2) : 115—118
1957. 全上 第 7 報 貝肉グリコーゲン並にステロールの生化学的考察 大阪市立衛研々報 19 : 110—116
- 阿 山 多 喜 也
1957. 真珠に関する用語 水増 3 (4) : 104—107
1958. 真珠の巻きについて —真珠はどれ程巻いたらよい

ものでしょうか— 会報2(2) : 26—27

阿 山 多 喜 也 1960. 一個入れ挿核について 会報4 (11) : 13—19

〔C〕

Cahn, A. R., 1949. Pearl Culture in Japan. G. H. Q. R. S Report
No. 122

千葉県水産試験場館山支所

1951. あわびを母貝とする真珠養殖試験 千葉水試月報2
(7) : 9—10 2(10) : 13

1952. 全上 全上3(1) : 10—11 3(2) : 10—11
3(3) : 13—14 3(4) : 15—16 3(5) : 15—17

1951. アワビ母介の真珠生成について、全上2(8) : 15—
16 2(9) : 18

〔F〕

藤岡 城 立石 新吉

1961. アコヤガイの真珠袋形成の組織学的観察 I 一特に
生殖巣熟度と真珠袋形成との関係について— 長崎
大学水産学部研報10 : 87—99

1961. 全上 II 特に外套膜切片(ピース)の内側および外
側表皮細胞に人為的傷害を与えた場合の真珠袋形成
について 全上11 : 141—151

福 田 保 1953. 真珠の色について 真珠養殖業資料 第2輯 PP.22
福田 保, 岩田 稔

1954. 真珠の色について(補遺) 大阪工業技術試験場季
報5(3) : 1—3

福田 保 山田 昭三 岩田 稔

1954. 真珠の色について 全上5 : 1—5

福 井 英 夫 1950. 三重県英虞湾の海洋学的予察調査概報—浜島湾及迫
子浦に就いて— 真研1(3) : 17—21

福 本 洋 1958. 真珠養殖漁場の海況に関する二、三の考察 会報2
(2) : 17—25

古 川 厚, 他 1959. 三重県下主要真珠養殖場予備調査結果について 内
海区水産研究所業績第86号 PP. 46

〔G〕

五ヶ所浦青年会真研クラブ

- 1958. 垂下深度、貝掃除の回数および垂下様式が真珠の品質に及ぼす影響について 会報3(10) : 14—21
- 1961. 真珠養殖漁場の生産性について 会報5(6—12) : 18—23

〔H〕

- 波 部 忠 重 1957. 真珠とそれを採る貝類 水増3(4) : 34—35
- 橋 本 恒 一 1959. 鳥羽、南島、瀬戸内海各漁場に於ける珠の品質について 会報4(7) : 5—7
- 橋 爪 寅 太 郎 1958. ゲンバク 会報2(3) : 39
- 蓮 尾 真 澄 1958. 大村産アコヤガイと三重県産との殻形の比較に関する研究 II 三重県産稚貝と英虞湾に移殖した大村産稚貝の成長に伴う殻形の変化の比較 真研報4 : 318—324
- 1958. 垂下深度についての一つの考え方 会報3(3) : 9—12
- 1959. 「卵抜き」とアコヤガイの疲弊について 会報3(9) : 10—13
- 1959. アコヤガイの足糸切断と成長について 会報3(10) : 25—28
- 1959. 「卵抜き法」の差異が真珠の品質に及ぼす影響 会報3(11) : 10—13
- 蓮尾 真澄 片田 清次 1959. アコヤガイの稚貝採苗について 会報4(4) : 9—15
- 蓮 尾 真 澄 1959. ピースの摩擦が真珠の品質に及ぼす影響 会報4(5) : 24—27
- 1959. ピースの摩擦と真珠の品質について 真研報5 : 494—498
- 1961. そう入核のサイズの差異と真珠の巻き並びに脱核率との関係 真研報6 : 657—662
- 1961. 母貝、ピース貝の健康状態が真珠の品質に及ぼす影

- 響について 真研報 6 : 663—669
- 波多野 博行, 他 1955. 放射性カルシウム Ca^{45} を用いた真珠及び貝殻形成に関する研究 第2報 日本真珠研報44 : 1—9
- 東 伶, 河合清三 1959. 淡水産二枚貝組織の呼吸代謝について 日水会誌25(3) : 222—227
- 平 賀 太 寿 雄 1958. 33年度真珠筏の規制方針について 会報2(3) : 1—7
- 平 本 寛 雄 1958. テビロンパールネットに就いて 会報3(3) : 22—30
- 広島県水産課 1960. 広島県真珠養殖業の現況 会報 4(11) : 24—26
- 広島県水産試験場 1955. 真珠形成に関する組織学的研究 (1) 広島水試報告 17 (1)
1958. 全上(2) 全上19 : 1—11
- 本 城 市 次 郎 1948. アコヤガイの刺戟生理学的研究 I 光反応 生理生態2(2) : 57—61
- 堀 修 二 郎, 他 1960. 養生について (アンケート) 会報 5(4) : 7—18
- 堀口 吉重 満尾 久彌
1952. 黒蝶貝の生長度について 真研2(4) : 17—20
- 堀口 重吉, 三宅 正人
1954. アコヤガイの生化学的研究 I アコヤガイの各組織に於けるグルコズルファターゼ、フェノールズルファターゼ及びコンドロズルファターゼの分布について 日水会誌 19(9) : 957—962
- 堀 口 吉 重, 他 1954. 放射性同位元素によるアコヤガイ及びイケチヨウガイの生化学的研究 I Ca^{45} によるイケチヨウガイのCa代謝 日水会誌 20(2) : 101—106
- 堀 口 吉 重 1956. アコヤガイ及びイケチヨウガイの生化学的研究 II アコヤガイとイケチヨウガイの各組織より Sulfomucopolysaccharides の分離 日水会誌 22(8) : 463—466
1957. 全上 III イケチヨウガイ各器官の Ca^{45} 集積及び排出 日水会誌22(12) : 747—751
1958. 鹿児島県を中心としたクロチヨウガイ、マベの資源とその養殖 会報 8 : 30—37
1958. アコヤガイ及びイケチヨウガイの生化学的研究 IV イケチヨウガイによる Ca^{45} の吸収と貝体内における

移動 日水会誌23(11) : 710—715

- 堀 口 吉 重
1959. アコヤガイ及びイケチヨウガイの生化学的研究 VIII
貝殻の微量成分について (その1) 日水会誌25 (5)
392—396
1959. 全上 IX 全上 (その2) 日水会誌25(5) : 397—401
1959. 全上 X 貝殻中のMnの形態について 日水会誌25
(10—12) : 675—679
1959. Biochemical studies on pteria (Pinctada) martensii
(Dunker) and Hyriopsis schlegelii (V. Martens)
V. Studies on absorption, excretion and renew-
al of Ca in Pteria (Pinctada) martensii (Dun-
ker) using ^{45}Ca . Rep. Fac. Fish. Pref. Univ.
Mie, 3(2) : 375—380
1959. Ibid. VI. On the dynamic calcium and inert one
in each tissue of Hyriopsis schlegelii (V. Mart-
ens) 全上 3(2) : 391—398
1959. Ibid. VII On the separation and purification of
sulfomucopolysaccharide and detection on its
component sugars. 全上 3(2) : 399—406
1960. 全上 XI 貝の各組織における有機酸について
日水会誌26(7) : 695—700
1960. 全上 XII 貝の血液および体液における $[\text{Ca}^{++}] \times$
 $[\text{CO}_3^{=}]$, $[\text{Ca}^{++}] \times [\text{HPO}_4^{=}]$ と $[\text{Ca}^{++}]^3 \times$
 $[\text{PO}_4^{=}]^2$ の見掛のイオン積について 日水会誌26
(7) : 701—707
1960. 全上 XIII 貝の Ca イオン濃度におよぼす有機酸の
影響 日水会誌26(7) : 708—715
1960. ^{32}P によるアコヤガイのP代謝について 日水会誌26
(7) : 716—720

堀口養殖真珠株式会社神前工場

1959. 挿核後の二種の養生方法の比較について 会報4(3)
16—18

原田雄四郎, 阿井 敬雄

1958. アコヤガイの放射線 (γ —線、X—線) 外部照射試験

静岡水試研究課報告、養殖部第2号 : 1—10

静岡水試事報 (昭和32年度) : 26

原田雄四郎, 阿井 敬雄

1961. 母貝及び細胞の相違による真珠の出現状況について
静岡水試事報 (昭和32年度) : 27

原田雄四郎 1961. 真珠養殖の挿核について 全上 (昭和33年度) : 143

堀田 秀之, 直江 春三

1950. 真珠母貝増殖事業 徳島水試事報 (昭和23、24年度) :
22—25

1950. アコヤガイ {*Pinctada martensii* (Dunker)} の貝
殻測定に於て認められる雌雄差について 全上 : 26
—27

〔I〕

市丸陽太郎 1959. 真珠養殖とバクテリア 会報4(1—2) : 4—15

生長清三 1954. アコヤガイの物質代謝に関する研究 I. Carbonic
Anhydrase について 日水会誌19(9) : 925—928

井村 望 1957. アコヤ貝の防汚 (antifouling) について 会報4 :
18—19

猪野真珠, 他 1960. 貝掃除について (アンケート) 会報5(5) : 33—37

井上喜平治, 浜口 章

1956. 真珠養殖予備試験 兵庫県水試事報 (昭和28年度) :
101—104

1957. 全上 全上 (昭和29年度) : 91—92

井上正昭 1956. 真珠養殖試験

1. はしがき 2. 養殖試験から観た真珠養殖の原価計
算 3. アコヤガイ Larva の発生最盛期と位置別の浮
游量変化 4. 出生地の異なる母貝より形成された色
調別真珠の出現率と脱核率 5. 卵抜きについての一
考察 6. 挿入核重量と真珠採取量 神奈川水試業報
(昭和29年度、其の2) : 202—219

井上義雄, 他 1952. 真珠漁場改良に関する研究 I 英虞湾の海水並に海
底泥に関する化学的調査 (予報) 三重水試研究報告
4 : 1—6

- 磯 野 平 内 1959. 内瀬浦における真珠貝生産の現状 PP6 内瀬浦漁業協同組合
- 磯 和 楠 吉 1956. 真珠成因研究の史的概観 真研報 1 : 47—56
 1957. 真珠成因の研究 I 真研報 2 : 158—166
 1957. 全上 II 実験及び考察 真研報 3 : 236—245
 1957. 天然真珠の成因について 水増3(4) : 36—37
- 岩 間 清 也 1959. 真珠貝養殖用資材としての合成樹脂 会報4(8.9) : 6—7

〔K〕

- 香川県水産課 1960. 香川県真珠養殖業の現状 会報 4(10) : 28—30
- 鹿児島県水産課 1959. 鹿児島県に於ける真珠養殖の現況 会報4(3) : 25—26
- 鹿児島県水産試験場 1951. 鹿児島県甑島海鼠池産アコヤガイ利用に関する研究 鹿児島県水試事報(昭和24年度) : 66—115
 1952. 黒蝶介棲息地海洋観測報告 PP. 21
 1953. 黒蝶介真珠養成試験 鹿児島県水指事報(昭和27年度) : 56—59
 1954. 全上 全上(昭和28年度) : 255—263
- (熊毛水産指導所) 1954. 黒蝶貝真珠養殖試験 鹿児島県水指事報(昭和28年度) : 375—379
 1955. 黒蝶貝養殖試験 鹿児島県水試事報(昭和29年度) 233—234
 1955. 黒蝶貝の生物学的調査 全上(昭和29年度) : 234—235
 1955. 黒蝶貝半円真珠養殖指導 全上(昭和29年度) : 523—527
 1955. 黒蝶貝真珠養殖試験 全上(昭和29年度) : 466—469
 1958. 黒蝶貝半円真珠養殖試験 全上(昭和31年度) : 26—28
 1958. くらちよう貝半円真珠養殖試験 全上(昭和32年度) : 144—145
 1958. 浦内湾におけるアコヤガイ採苗の可能性について 全上(昭和32年度) : 207—212

1960. くろちよう貝産卵期調査 鹿児島県水試事報（昭和33年度）：28—29
1960. くろちよう貝半円真珠養殖試験 全上（昭和33年度）30—31
1961. クロチヨウガイ半径真珠養殖試験 全上（昭和34年度）：130—136
- （大島分場） 1961. マベ *Pteria penguin* (Röding) の増殖に関する基礎的研究Ⅴ 幼生の飼育と稚貝の成長 PP. 12
- 戒能 孝和, 西口 一夫
1959. 愛媛県産アコヤガイと三重県産アコヤガイとの成長度並びに殻形の比較に関する試験 愛媛県真珠及び真珠貝養殖に関する試験研究報告：1—28
- 戒能 孝和, 浜崎 弘
1959. 真珠養殖場の海況調査 全上：29—58
- 戒能 孝和, 西口 一夫
1959. 真珠貝越冬試験 全上：66—67
1959. 真珠品質に関する予備試験 全上：68—73
- 戒能 孝和 1959. 真珠貝採苗に関する一考察 全上：74—75
1959. 真珠品質に関する予備試験 会報4(8.9)：1—6
- 戒能 孝和, 浜崎 弘
1961. 真珠貝採苗試験 愛媛県水試事報（昭和35年度）：193—209
1961. 化繊緩網による真珠貝採苗試験 全上：210—211
1961. 真珠養殖場の海況調査 全上：212—217
1961. 養殖資材及び真珠貝の附着生物の季節的变化について 全上：218—220
1961. 真珠品質に関する試験 全上：220—226
- 戒能 孝和 1962. 真珠の品質に関する試験 会報39：51—58
- 片田 清次 1957. 游離塩素のアコヤガイその他二三の浮游仔貝に及ぼす影響 真研報2：142—146
- 片田 清次, 他 1957. 大村湾内真珠養殖場の海洋調査 真研報2：147—157
- 片田 清次 1957. 低比重のアコヤ貝の斃死に及ぼす影響 会報8：21—24

- 片 田 清 次 1958. 低比重海水のアコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) に及ぼす影響 I 真研報 4 : 308—314
- 片田 清次, 山口 一登 1958. 養殖環境と真珠の色および巻の関係 会報3(4) : 6—11
- 片 田 清 次 1959. 低比重がアコヤガイの斃死 成長および真珠の品質におよぼす影響 会報4(1—2) : 16—19
1959. 低比重海水がアコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) の斃死、成長並びに真珠の品質に及ぼす影響 真研報 5 : 489—493
1959. 真珠の化粧巻漁場の意義と予備試験 会報 3 (11) : 6—9
- 加 藤 修 幸 1957. 立神地区で現在行われている卵抜き法について 会報 3 : 5—6
- 川 上 逸 枝 1952. アコヤガイの外套膜の再生 真研2(3) : 1—4
1952. Studies on pearl-sac Formation 1. On the regeneration and transplantation of the mantle piece in the pearl oyster. Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ., Ser. E (Biol.) 1(2) : 83—88
1953. Ibid. II. The effect of water temperature and freshness of transplant on pearl-sac formation. Annot. Zool. Jap. 26(4) : 217—223
1954. Ibid. III. Pearl-sac formation in fresh water mussels. Annot. Zool. Jap., 27(4) : 215—219
1957. 真珠袋形成の研究IV 低温処理を施したアコヤガイの外とう膜片による真珠袋並びに真珠形成 真研報 3 : 229—235
- 河 原 辰 夫 1958. 海中における附着生物の生態 会報2(2) : 4—8
1961. フジツボの付着とその防除 会報6(2) : 62—76
- 河 合 清 三 1954. イケチヨウガイの Carbonic Anhydrase とその生理学的意義について 貝雑 18(1) : 39—46
1954. アコヤガイの物質代謝に関する研究 II 各種組織の carbonic anhydrase 活性度の年令ならびに季節による変動 生理生態6(1) : 23—27

- 河 合 清 三 1954. Carbonic anhydrase in pearl oyster. I. Distribution and some properties of the enzyme. Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto, Ser. B. 21(1) : 39—44
 1954. Ibid. II. Changes of the enzyme activity in relation to growth and seasons. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., V (1) : 89—94
 1956. 海産二枚貝鰓のチトクローム系について 生化学28(6) : 379—383
 1957. アコヤガイの物質代謝に関する研究Ⅲ 組織呼吸について 日水会誌22(10) : 626—630
 1958. 海産二枚貝組織の末端酸化系について 日水会誌23(11) : 738—742
- 川本 信之, 元木 英輔
 1954. あこやがいの生理学的研究Ⅰ 心臓搏動に対する稀釈海水の影響 日水会誌20(3) : 184—188
- 川 本 信 之 1954. 全上 Ⅱ 稀釈海水中に於ける介体液の氷点降下度に就いて 日水会誌20(4) : 273—276
- 川本 信之, Motoki, E.,
 1954. Influence of diluted sea water on the pearl oyster. Rep. Fac. Fish. Pref. Univ. Mie. 1 (3) : 346—354
- 川 本 信 之 1957. アコヤ貝の比重に対する抵抗力について 会報3 : 8—11
- 川本 信之, 中西 捨吉
 1957. アコヤガイ血球の顕微鏡的観察 真研報3 : 202—206
- 木 村 銀 司 1961. 輸出真珠の概況について 会報6(2) : 45—61
- 木 村 三 郎 1957. 最近の海況について 会報6 : 21—23
- 木村 三郎, 山口 昇
 1959. 33年度試験養殖について 会報3(10) : 1—9
- 木 村 三 郎, 他 1960. 33年度試験養殖について 第2報 真珠の「巻き」について 会報4(12) : 1—6
- 木 村 三 郎 1960. 高水温の出現について 会報5(3) : 8—13
 1961. 真珠貝の異常斃死と多毛類について 会報6(2) : 35—44

- 木村三郎 1962. 真珠用 X線装置取扱いについて 会報39 : 63—65
 1962. X線障害防止の見地から真珠用 X線装置の取扱いについて 会報39 : 66—70
- 小林万作 1960. 真珠養殖界過去50年間の思い出を語る(上) 会報5 (1) : 13—17
- 小林万作,他 1955. 真珠養殖に関するシンポジウム記録 PP. 48. 国立真珠研究所
- 小林万作 1960. 真珠養殖界過去50年間の思い出を語る(下) 会報5 (2) : 1—3
- 小林 博, 松井 淳平 1953. アコヤガイの環境変化に対する抵抗性の研究(1) 鰓の纖毛運動について 水講研報3(2) : 123—131
- 小林 博 1954. 全上(2) 心臓の搏動について 全上4(1) : 95—100
 1954. 全上(3) 衝撃に対する介殻の強さ 全上4(1)111—115
 1955. 工場排水中に含まれた炭酸カルシウムの浮游粒子がアコヤガイに及ぼす影響 全上5(3) : 215—224
 1957. Studies on the resistance of the pearl oyster, *Pinctada martensii* (Dunker), against changes of environment. IV. On the tolerance of the oyster considered from the relation between the ciliary movement and the heart beat 全上6(3) 337—346
- 小林新二郎 1948. 真珠養殖の研究I アコヤ貝の発生 採集と飼育10 (9) : 267—268
- 小林新二郎, 東畑 正敏 1949. 全上II アコヤ貝の冬期の生活力について(1)、(2) 日水会誌14(4) : 196—202
- 小林新二郎 1949. 真珠トビックス 科学朝日9(10) : 20
 1950. 赤潮と真珠養殖 真研1(1) : 13—24
 1950. アコヤ貝を冬期室温にさらした場合の斃死率に就いて 真研1(2) : 8—9
 1950. アコヤ貝活動の日週性、美麗なる真珠質を分泌する貝類に仮称真珠酵素の存在を予想して 真研1(2) : 17—24

- 小林新二郎 1950. アコヤ貝稚貝雑録(1) 真研1(3) : 3—6
 1950. アコヤ貝の介殻表面に於ける輪状薄片形成の週期性 真研1(3) : 10—16
 1951. アコヤ貝に於ける再生試験から見た介殻形成力の勾配と年変化 真研2(1,2) : 2—6
 1951. アコヤ貝に於ける足糸分泌力の年変化生活力の簡易判定法 真研2(1,2) : 7—12
 1951. アコヤ貝稚貝雑録(2) 真研2(1,2) : 12—19
 1951. 英虞湾に於けるアコヤ貝稚貝発生の豊凶と海況及び気象要因との相関について 真研2(1,2) : 19—27
 1951. 真珠の品質と真珠貝の養殖深度との関係 (予報) 真研2(1,2) : 40—43
- 小林新二郎, 渡部 哲光
 1951. 真珠の層状構造、特に表面の構造について 動雑20(12) : 35
- 小林新二郎, 結城 了伍
 1952. アコヤガイ *Pinctada martensii* のタンク内人工飼育 日水会誌17(8,9) : 275—282
- 小林新二郎 1957. 真珠質分泌の生理 水増3(4) : 45—50
 1959. 真珠の研究 PP. 280. 技報堂、東京
- 国立真珠研究所 1956. 真珠貝の夏季斃死とその対策について PP. 14.
 国立真珠研究所, 三重県水産試験場
 1958. 立神浦における真珠貝の異常斃死について PP.16.
 国立真珠研究所 (養殖研究室)
 1959. 化繊綆網による真珠貝採苗試験 会報3(9) : 6—10
 国立真珠研究所 1960. 真珠研究の現段階 会報4(11) : 8—13
- 神前武和 1947. 真珠中ポルフィリン体に就いて 生理生態1(4):39-42
- 小竹子之助 1953. アコヤガイ増殖に関する研究Ⅰ アコヤガイ浮游幼生の出現時期について 日水会誌19(3) : 145—150
- 小竹子之助, 宮脇 安能
 1953. アコヤ貝斃死原因菌と思われる細菌の分離について 徳島水試だより 5 : 13—17
 1954. アコヤガイ増殖に関する研究Ⅱ細菌によるアコヤガイ異常斃死について(Ⅰ) 日水会誌19(9) : 952—956

小竹子之助 河村 光保

1954. 外観からアコヤ貝の雌雄を区別する事が出来るで
しょうか 第1報 徳島水試だより6 : 17—19
1955. 全上 第2報 全上8 : 10—13
1955. プロフィン P₅ (仮称) 試薬処理による真珠質分泌促
進に関する研究 全上8 : 15—17
1955. 真珠養殖試験 (1) アコヤ貝採苗試験 (2) 真珠養
殖漁場適地調査 徳島水試事報(昭和27年度) : 35
—36

小竹子之助 1955. アコヤ貝異常斃死についてⅡ 全上(昭和28年度)
97—100

小竹子之助, 河村 光保

1955. 真珠養殖試験 (1) アコヤ貝採苗試験 (2) 真珠養
殖試験 全上 : 104—106

小竹子之助 1955. アコヤガイ増殖に関する研究Ⅲ 細菌によるアコヤ
貝異常斃死について(2) 日水会誌20(11) : 979—981

小竹子之助, 河村 光保

1957. 全上Ⅳ 貝殻外形の雌雄差について 日水会誌23
(6) : 287—289
1957. アコヤガイ養殖真珠に関する研究Ⅰ 異なる型の外
套膜ピースで養殖された真珠の性状について 日水
会誌23(7,8) : 363—365
1957. 全上Ⅱ “うすまき” 真珠のできる原因について
日水会誌23(7,8) : 366—367
1957. 全上 徳島水試事報(昭和29—32年度) : 31—39

小竹子之助 1959. アコヤガイを母介とするプラスチック製大型半円真
珠の養殖について 会報3(10) : 21—24

小関 信章 1957. 輸出面から見た真珠事業の現況と将来 水増3(4) :
23—30

桑 谷 幸 正 1957. 真珠貝採苗について たんごかい13 : 13—17

〔M〕

前田 耕作, 新村 巖

1952. 黒蝶介棲息地海洋観測 鹿児島水試事報(昭和26年

- 度) : 74—119
- 前田三郎, 他 1958. 真珠稚貝採苗試験 兵庫水試事報 (昭和32年度) : 113—119
- 町井 昭 1957. アコヤガイ (*Pinctada martensii*) の脂質の組織化学的研究 I 真研報 2 : 100—106
- 町井 昭, 中原 皓 1957. 真珠袋の組織化学的研究 II 季節による真珠袋形成速度の差異 真研報 2 : 107—112
- 町井 昭 1957. 真珠袋の形成について (1) 会報 2 : 25—26
1958. 真珠袋の組織化学的研究 VI 核及びピースの大きさによる真珠袋形成速度の差異 真研報 4 : 283—286
1959. 全上 IV いわゆる“黒斑”の真珠袋 真研報 5 : 407—410
1959. 全上 V 真珠袋の移殖 全上 5 : 411—417
1961. “あとづけ”に関する研究 III 真珠袋の形成 全上 6 : 642—646
- 丸山 昭吉 1958. 真珠母貝養殖について 第4回水産業改良普及研究発表資料 : 117—126
- 松井 英一 1960. 宝石・貴金属の選び方、買い方 PP. 267 実業之日本社 東京
- 松井 佳一 1946. 真珠はどうしてできるか 科学朝日 6(12) : 20—22
1950. 養殖真珠とその研究 水産界 789 : 10—13
1950. 真珠の生因について 貝雑 16(1—4) : 25—32
- 松井 佳一, Hirota, T. 1952. Studies on the formation of pearls. I. On the relationships of proteins and CaCO_3 crystals in the layer of baroque pearls. Seto Mar. Biol. Lab. 2(2) : 331—339
- 松井 佳一, 他 1953. イケチヨウガイにおける真珠袋の形成 採集と飼育 15(12) : 1—4
- 松井 佳一 1956. Aspects of the environment of pearl-culture grounds and the problems of hibridization in the genus *Pinctada*. Perspectives in marine biology, a symposium held at Scripps Institution of Oc-

eanography, Univ. California March 24-April
2. 1956 : 519—531

- 松 井 佳 一 1957. 真珠養殖史 水増3(4) : 7—9
1958. 真珠の生因説に関する研究 日水会誌24(6—7) :
402—406

松井 佳一, 山口 正男

1958. マベ *Pteria penguin* (Röding) 真珠養殖沿革と採
取後の斃死率についての一考察 会報3(6) : 12—17

- 松 井 佳 一 1959. 養殖真珠の初期技術史について 日本真珠研報63 :
1—4 科学史研究49 : 1—3

- 松 本 友 雄 1948. 日本真珠の現状と将来 農学1 : 56—57

- 松 下 幸 雄 1960. 真珠貝採苗について 第6回漁村青壮年婦人研究グ
ループ実績発表全国大会資料 : 242—245

三重県真珠貝養殖漁業協同組合

1957. 真珠母貝の養殖について 会報2 : 33—40

三重県水産高等学校 1959. 真珠養殖入門 PP. 241. いさな書房 東京

- 三重県水産試験場 1952. アイソトープを応用した真珠形成基礎研究 三重水
試時報 169 : 18—29

1954. 真珠養殖関係資料 PP. 197. (増補分) PP. 17

1960. 避寒がえりの貝の斃死について 会報5(1) : 5—6

1960. 台風シーズンを迎えて 会報5(4) : 28—32

三重県水産試験場, 国立真珠研究所

1960. 本年夏季の真珠貝の異常斃死について 会報5(5) :
1—10

三重県商工水産部水産課

1957. 三重県における真珠養殖業の現状と問題点 PP. 24

1958. 全上 PP. 45

箕田 冠一, 水沼 栄三

1960. 淡水真珠養殖漁場に関する基礎調査Ⅰ 漁場条件に
及ぼす水、底質の理化学的性状 滋賀水試研報12 :
23—74

宮本 正昭, 福田 修

1954. 真珠貝採苗に関する試験 和歌山水試事報(昭和27
年度) : 30—36

- 宮 本 正 昭 1954. 真珠貝採苗試験 和歌山水試事報（昭和28年度）：
69—70
- 宮本 正昭， 清水 昭治
1956. 全上 全上（昭和30年度）： 130—131
1957. あこや貝採苗予備試験調査 全上（昭和31年度）：
55—57
1957. あこや貝の採苗時期予報について 全上（昭和31年
度）： 62—69
1958. あこや貝仔虫出現状況調査 全上（昭和32年度）：
172—174
- 宮 村 光 武 1957. アコヤガイの採苗と成長 水増3(4)： 69—75
- 宮 内 徹 夫 1957. 卵抜きに関する一提案 会報 3： 11—14
1957. 真珠養殖上の問題（Ⅰ）—特に環境条件について 会
報 6： 14—18
1957. 全上（Ⅱ） 会報 7： 14—21
1957. 真珠養殖場の成立条件 水増3(4)： 55—60
1958. 真珠養殖業者のために（1） 良質真珠の養殖法につ
いて 会報3(8)： 19—31
1959. 全上（2） ピース（細胞）の染色液について 会報
4(6)： 15—17
1960. 貝掃除に関する研究Ⅰ 薬品による防汚とアコヤガイ
の成長 会報 4(10)： 17—19
1960. 真珠養殖の合理化Ⅰ 作業研究の意義 会報5(1)：
28—32
1960. アコヤガイの斃死 会報5(1)： 36—37
1960. 真珠養殖業者のために（3） ナイロンロープの吊線
会報5(5)： 26—29
1961. 真珠養殖の合理化Ⅱ 合理化の原則 会報5(6—12)：
24—28
1962. アコヤガイの濾過水量Ⅰ 日週性について 水増 9
(4)： 201—206
1962. 真珠の品質改良に関する研究Ⅰ 挿核時における貝
とピースのクロルテトラサイクリンによる処理およ
びピース染色用色素について 水増9(4)： 207—214

- 宮内 徹夫 1962. 良質真珠の養殖Ⅰ ピース染色の新しい色素と無菌的な挿核施術について 会報39 : 31—39
- 水本 三郎 1952. 淡水真珠の養殖に関する研究(第2報) 滋賀水試研報2
1953. 全上 第4報 全上4 : 20—23
- 水本 三郎, 田辺 吉藏 1953. イケチヨウガイ *Hyriopsis schlegelii* の増殖に関する研究 第3報 全上4 : 24—28
1954. 全上 第2報 全上3 : 24—26
- 水本 三郎 1954. 淡水真珠の養殖に関する研究 第3報 全上3 : 27—32
- 水本 三郎, 小林 吉三 1954. イケチヨウガイの増殖に関する研究 第4報 全上5 : 11—14
1954. 淡水真珠の養殖に関する研究 第5報 全上5 : 8—10
1956. イケチヨウガイの増殖に関する研究 第5報 全上6 : 9—13
1957. 淡水真珠の養殖に関する研究 第6報 真珠養殖に於ける養殖法と真珠の巻きについて 全上8 : 22—23
- 水本 三郎 1957. イケチヨウガイによる真珠養殖 水増3(4) : 99—101
- 水本 三郎, 小林 吉三 1958. イケチヨウガイの増殖に関する研究 第6報 滋賀水試研報9 : 6—11
1959. 全上Ⅶ イケチヨウガイの成長について 全上10 : 19—32
1959. 淡水真珠の養殖に関する研究Ⅶ 母貝の蓄養期間による斃死率及び真珠の巻きについて 全上10 : 33—36
- 森 勇 1955. 早岐瀬戸に於ける養殖真珠貝の斃死原因調査 長崎水試事報(昭和26、27年度) : 130
- 森 主一 1948. アコヤガイの日週期活動 貝雑15(1—4) : 46—51
1948. 低圧 O₂ 海水中的のアコヤガイの呼吸(予報) 貝雑15(1—4) : 52—54

- 森 島 正 夫 1950. 英虞湾の真珠漁場に関する研究 第4報 英虞湾における有孔虫類の堆積 京大生理生態72 : 62—66
- 元村 勲, 小林新二郎 1947. 真珠の着色の週期性について 生態学研究 10(2) : 77—79
- 元 村 勲 1950. 真珠の螢光 真研1(2) : 1—2
1951. ケシの出来かた 真研2(1.2) : 1—2
- 村上 菊太郎, 他 1960. 真珠の色及び巻きに及ぼす外套膜片採取位置の影響と月別真珠形成速度と水温の関係について 会報 5(5) : 16—20

〔N〕

- 長崎県水産試験場 1952—1953. 真珠養殖場環境調査概要 1—15号
1953. 大村湾調査 16 : 1—8 17 : 1—7 18 : 1—9
19 : 1—6 20 : 1—8
1954. 全上 21 : 1—8 22 : 1—5 23 : 1—14 24 : 1—12
1954. 大村湾調査報告 第1報 PP. 117
1955. 大村湾調査 25 : 1—13 26 : 1—14
1956. 全上 27 : 1—101 28 : 1—25
- 長崎県水産施設課 1959. 長崎県真珠養殖業の現況 会報4(6) : 26—28
- 中原 皓, 町井 昭 1956. 真珠袋の組織学的研究Ⅰ 異常真珠と正常真珠の真珠袋の比較 真研報 1 : 10—13
- 中 原 皓 1957. 外套膜と真珠袋 会報 3 : 6—8
1957. 光学顕微鏡による真珠及び貝殻の表面構造の観察方法について 真研報 2 : 94—99
- 中原 皓, 町井 昭 1957. 真珠袋の組織学的研究Ⅲ 形成初期におけるピース並びにその周囲組織の変化 真研報 3 : 212—217
1957. Some morphological features of pearl sac tissues in relation to the normal and abnormal pearl production in the pearl oyster (*Pinctada martensii*). J. Fac. Sci. Hokkaido Univ Ser. VI. Zool. 13 : 268—270

- 中 原 皓 1959. X線による真珠の鑑定 アメリカみやげ話 (1)
会報4(3) : 11—12
1960. 真珠層に目印をつけるころみ 会報5(4) : 19—20
1961. 真珠袋の組織学的研究Ⅶ メタクロマジー物質の行動
真研報 6 : 541—545
1961. テトラサイクリンの使用による真珠層の生長度の測定
真研報 6 : 607—614
- 中 村 忠 臣 1958. 貝の附着物の処理に関する一提案 会報3(2) : 15
1961. 金網籠を利用した卵抜きの一方法について 会報 6
(1) : 19—20
- 中 西 留 雄 1950. イケチヨウ貝の増殖に関する研究 (第1報) 滋賀水
試研報 1 : 34—40
1950. 淡水真珠養殖に関する研究 (第1報) 全上1 : 41—46
- 新 村 巖, 他 1957. クロチヨウ貝半円真珠養殖試験 鹿児島水指事報
(昭和30年度) : 105—106
- 新村 巖, 豊田 正雄 1958. まべ *Pteria penguin* (Röding) 増殖に関する基礎
的研究Ⅱ 水槽内人口飼育について PP. 13 鹿児島
水試大島分場
1958. マベ *Pteria penguin* (Röding) 増殖に関する基礎
的研究Ⅰ 人工受精と発生について 鹿児島水試事
報(昭和31年度) : 33—43
- 新 村 巖 1961. マベ *Pteria penguin* (Röding) の増殖に関する基
礎的研究Ⅳ 幼生の飼育と稚貝の成長 全上(昭和
34年度) : 325—336
- 西 井 和 也 1960. 真珠稚貝採苗における採苗器の種類と附着成績 第
6回漁村青壮年婦人研究グループ実績発表全国大会
資料 : 122—131
- 西 飯 保, 他 1961. 真珠養殖におけるいわゆる貝そうじの効果に関する
研究Ⅱ 貝そうじ及びかご交換の回数とアコヤガイ
の成長ならびに真珠の品質との関係 真研報 6 :
670—675
- 西 飯 保 1961. 全上Ⅳ 貝そうじの時期と附着生物アコヤガイの成
長ならびに真珠の品質について 真研報6 : 679—683

- 西 飯 保 1961. 真珠養殖におけるいわゆる貝そうじの効果に関する研究Ⅴ 附着生物がアコヤガイの成長並びに真珠の巻きにおよぼす影響 真研報 6 : 684—687
- 野 村 孝 男 1958. 私のコールタール染法 会報2(3) : 12—17
- 野 村 孝 男,他 1960. “今回の災害にこう思う”(アンケート) 会報5(2) : 32—36
- 野 村 孝 雄 1960. あこや介の水平分布線と災害対策 会報5(3) : 20—22

農林水産技術会議事務局

1962. 真珠養殖における脱核防止のためのX線利用新しい技術 : 134—135
1962. 真珠養殖業における漁場転技術 とくに「化粧巻き漁場」の利用 新しい技術 : 135
- 沼 野 井 春 雄 1948. 生体とカルシウム PP. 126 北方出版社 札幌

〔O〕

- 小 川 恕 人,他 1958. アコヤガイの性ホルモンⅠ アコヤガイ生殖腺成分の排卵精促進効果 医学と生物学 46 (1) : 42—45
静岡水試研究課報告 養殖部第2号 : 11—14
静岡水試事報(昭和32年度) : 28
- 小川 恕人, 原田敬四郎 1961. アコヤガイの生殖腺より分離した塩基物質の排卵精効果 静岡水試事報(昭和33年度) : 142
- 小川 良徳, 伊藤勝千代 1955. 七尾湾における真珠貝資源の利用に関する研究 日本海区水産研究所研究年報 No. 2 : 55—70
- 大 畑 真 一 郎 1960. 台風等の被害対策 会報5(3) : 22—26
- 大分県水産課 1960. 大分県真珠養殖事業の現況 会報4(11) : 22—24
- 小 島 吉 雄 1949. アコヤガイ外套膜の組織学的研究 特に腺細胞に関する観察 生物4(5,6) : 201—205
1950. アコヤガイ外套膜の組織学的研究 特にカルシウムに関する組織化学的研究(予報) 細胞学遺伝学論文集 : 53—59
1952. Histological studies on the mantle of pearl oy-

- ster (*Pinctada martensii* Dunker) *Cytologia* 17
(2) : 134—143
- 小島 吉雄, 生長 清三
1953. イケチヨウガイ (*Hypiopsis schlegelii*) の外套膜
及び真珠袋に於ける Alkaline phosphatase 分布(予
報) 動雑62(12) : 26—29
- 小島 吉雄, Watanabe, T.
1953. Studies on the pearl-sac in molluscs. *Annual
Studies (Kwansei Gakuin Univ.)* 1(1) : 57—63
- 小島 吉雄, Maeki, K.,
1955. Some cytological account of the maturation of
the gonad in the pearl-oyster, *Pinctada marte-
nsii* Dunker. *Kwansei Gakuin Univ. Ann.
Studi.* 3 : 95—98
1955. アコヤガイ (*Pteria martensii* Dunker) における
生殖巣の発達について 遺雑30(4) : 151—157
- 岡田 喜義, 川畑 寛一
1953. 真珠の色の測定及び分類 電気試験所集報17(12) :
1—11
- 岡山県水産課 1960. 岡山県真珠養殖業の現況 会報5(2) : 44—45
大川 泰司 1959. アコヤガイの食性について I 捕食活動の日週期
真研報 5 : 450—458
- 大倉 邦彦 1960. 真珠の色は外套膜と水深に関係 会報 4(10) : 2—3
大森 啓一 1947. 真珠の色とつや 科学朝日 7 : 34—36
1948. 真珠の内部構造と色及び光沢 地質学雑誌54 (631
—633) : 171—177
1950. 真珠の異常発達 真研1(1) : 3—6
- 大阪府水産試験場 1958. イケチヨウガイ増殖試験 大阪水試事報(昭和30年
度) : 85—87
- 大島水産指導所 1957. まべ真珠養殖基礎調査(I) まべ半円真珠養殖事業
調査(II) まべの成長度調査(III) まべ採苗調査鹿
児島水指事報(昭和30年度) : 267—275
- 大須賀 正二 1959. 卵抜き之母貝状態による入核直後の斃死率について
会報4(5) : 17—23

- 大 須 賀 正 二 1960. 母貝仕立について 会報5(1) : 7—12
 1961. 母貝仕立の方法について 会報6(2) : 29—34
- 大隅水産指導所 1957. 黒蝶貝真珠養殖試験 鹿児島水指事報(昭和30年度)
 208—209
- 太 田 繁 1956. 大村地先におけるアコヤガイ (*Pinctada martensii*)
 の成長と貝殻の外部形態 真研報 1 : 25—40
 1957. 大村産アコヤガイと三重産との殻形の比較に関する
 研究Ⅰ 大村産稚貝と大村湾に移殖した三重産稚貝
 の成長に伴う殻形の変化の比較 全上 2 : 119—126
 1957. アコヤガイ (*Pinctada martensii* Dunker)
 の浮游仔貝の識別について 全上 2 : 127—132
 1957. アコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) の浮游
 仔貝の生理生態に関する研究Ⅰ 浮游仔貝の低比重
 海水に対する抵抗力について 全上 3 : 207—211
 1957. 長崎県下に於ける真珠業界の現況 水増3(4) : 31
 —33
 1958. 施術後の「静養」期間についての一つの考え方
 会報 8 : 19—21
- 太田 繁, 山口 一登 1958. 養殖籠の「網目」の大きさが稚貝の成長に及ぼす影
 響 会報2(3) : 10—12
- 太 田 繁 1958. 大村産の真珠貝と大村湾へ移殖後約1ケ年を経過し
 た三重産の殻形の比較について 会報3(2) : 1—2
 1958. 真珠貝養殖に関する諸問題 会報3(7) : 1—8
 1958. アコヤガイの食性に関する研究Ⅰ 杆晶体の長さの
 季節的消長 真研報 4 : 315—317
 1959. 全上Ⅱ アコヤガイの糞の量の季節的变化 全上5:
 429—433
 1959. 全上Ⅲ 核入れ手術の影響による糞量の変化 全上
 5 : 434—438
 1959. 全上Ⅳ 養殖条件(いかだ内における貝の垂下位置
 並びに漁場)によるアコヤガイ糞量の変化(予報)
 全上 5 : 439—442
 1959. 全上Ⅴ アコヤガイに捕食される夏季出現する浮游

- 仔貝（二枚貝）の数量並びにその大きさについて
真研報 5 : 443—449
- 太 田 繁 1959. 再び施術後の養生期間について食性から見た施術の
貝の活力に及ぼす影響に就いて 会報3(9) : 14—16
1959. アコヤガイの付着物の量と貝掃除の回数との関係に
ついて 会報 3(10) : 10—14
1960. 愛媛県の母貝養殖を見て 会報 4(12) : 28—30
1960. 和歌山県における母貝養殖についての一つの資料
会報5(1) : 24—27
1960. 養殖場の海水の交流 会報5(4) : 21—22
1960. 真珠養殖における寄生虫の被害について 会報5(5)
38—46
- 太田 繁, 福島洋太郎
1961. アコヤガイの食性に関する研究Ⅶ 低比重海水がア
コヤガイの糞量に及ぼす影響 真研報 6 : 567—572
- 太 田 繁 1961. 全上Ⅶ 環境海水の流速によるアコヤガイの糞量の
変化(予報) 全上 6 : 573—575
- 太田 繁, 清水 進平
1961. 真珠の品質に及ぼす貝掃除のための空中露出時間の
影響 全上 6 : 688—694
- 太 田 繁 1961. 対馬の養殖場 会報6(1) : 38—40
1962. アコヤガイの貝殻に侵入した多毛類の駆虫方法につ
いての提案 会報39 : 59—62

〔R〕

- 労働省職業安定局 1950. 真珠養殖、加工業

〔S〕

- 斎藤 三郎, 小竹子之助
1949. 長崎県に於ける真珠養殖業について 長崎水試事報
(昭和23. 24年度) : 33—36
- 阪 口 清 次 1961. 養殖漁場と真珠品質との関係養殖過程中に他の漁場
へ移し養成した場合 真研報 6 : 695—701
- 佐賀県水産課 1960. 佐賀県真珠養殖業の現況 会報5(4) : 23—24

- 阪本市太郎 1957. 海洋観測の手引 会報 3 : 14—16
- 佐藤忠勇 1957. プラクトンの異常増殖 会報 6 : 23
1957. 真珠の化粧巻漁場の環境 水増3(4) : 61—68
1958. 真珠養殖場として優秀な矢湾の性状 水産資源 4 (4) : 67—74
1958. 的矢湾に於ける真珠養殖の実態 特に仕上漁場としての海況について 的矢湾養殖研々報 1 : 1—72
1960. 的矢湾に於けるチリ地震津波と養殖筏の被害状況 会報5(3) : 14—19
1960. 三重県下におけるチリ地震津波と養殖イカダの被害状況 水増8(3) : 193—202
- 沢田保夫 1957. アコヤガイ貝殻及び真珠の無機成分に関する研究 I 真研報 2 : 68—73
1957. 自記分光光度計による真珠の色の測定 全上3 : 175—182
1958. 真珠養殖漁場に関する諸問題 会報 3(7) : 9—22
1958. 真珠貝の生化学的研究真珠貝の色素 真研報 4 : 335—339
1958. 真珠貝の螢光に関する研究 全上 4 : 340—346
1958. 真珠養殖漁場の養殖海洋学的研究 I 1958年 7月英虞湾立神浦における真珠貝異常斃死漁場の観測結果について 全上 4 : 347—355
1958. 真珠の色について 真珠 3 (11) :
1959. 放射線による真珠及び真珠貝殻の変化に関する研究 真研報 5 : 395—406
- 沢田保夫, 丹下 孚
1959. 真珠養殖漁場の養殖海洋学的研究 II 英虞湾内の 4 点において生産される真珠品質の比較と海況について 全上 5 : 459—481
- 沢田保夫 1959. 化学的にみた真珠貝の生態 化学技術3(1)
1961. 真珠貝の生化学的研究 III アコヤガイ軟体部のポーフィリン色素の分布 真研報 5 : 546—552
- 沢田保夫, 谷口宮三郎
1961. 真珠貝の生化学的研究 IV アコヤガイの肉質成分の

季節的变化について 真研報 6 : 553—560

沢田 保夫 谷口宮三郎

1961. 真珠貝の生化学的研究Ⅴ アコヤガイの無機成分の
季節的变化について 全上 6 : 561—566

沢田 保夫 1961. 真珠の黄色色素の研究 全上 7 : 865—869

沢田 英四郎 1950. 真珠貝の池中養殖法の研究 水産研究会報3:48—57

関 政夫 1957. 真珠貝の異常斃死について 会報 7 : 7—11

1960. アコヤガイ浮游幼生の分布について (採苗に関する
諸問題について) 水増8(3) : 165—179

1960. 英虞湾の赤潮について 会報5(5) : 20—25

瀬戸口 勇 1961. クロチヨウガイ *Pinctada margaritifera* (L.) の人
工受精と初期発生について 鹿児島水試事報 (昭和
34年度) : 137—142

1961. クロチヨウガイ *Pinctada margaritifera* (Linne)
生殖巣の周年変化に関する組織学的観察 全上 :
143—149

1961. クロチヨウガイ半径真珠加工試験 全上 : 150—152

1961. クロチヨウガイ貝付真珠及び貝殻の表面構造の観察
全上 : 153—156

椎野 季雄 1952. あこやがい解剖に有用な二、三のテクニク 真研
2(4) : 1—4

1952. あこやがい (真珠貝) 解剖図 pls. 12 三重県水試

清水 昭治 1955. 真珠貝採苗試験 和歌山水試事報 (昭和29年度) :
95—97

1956. 真珠貝採苗時期予報について 全上 (昭和30年度) :
127—129

清水 進平, 西飯 保

1961. 真珠養殖におけるいわゆる貝そうじの効果に関する
研究Ⅲ かご交換の効果に関する追試 真研報 6 :
676—678

真珠研究会 1958. 海況注意予報 (1) 会報3(4) : 26—28

1958. 全上 (2) 会報3(4) : 28—30

1958. 全上 (3) 夏季の高水温による真珠貝斃死に関する
注意 会報3(4) : 31—33

- 真珠研究会, 他 1959. 夏季斃死の予防について—特に英虞湾について—
〔昭和34年度注意報第1報〕 会報4(5) : 34—36
1959. 最近の海況と初秋の注意 会報4(6) : 28—29
- 真 珠 研 究 会 1959. 真珠用語辞典 PP. 164
1960. アンケートに見るチリ津波 会報5(5) : 55—63
- 白 井 祥 平 1958. 附着生物に対する考え方 会報2(2) : 12—17
1958. 真珠抄録(1) 附着動物について 会報2(2) : 28—38
1958. 全上(2) 真珠貝及び母貝について 会報2(3) :
21—38
1958. 全上(3) アコヤガイの生活力について 会報3(1)
6—16
1958. 全上(4) 生殖巣放卵(卵抜き)人工受精、発生に
ついて 会報3(2) : 23—40
1958. 全上(5) 細胞(ピース)及び組織(パールサック)
について 会報3(3) : 34—47
1958. 全上(6) アコヤガイの稚貝及び採苗について
会報3(6) : 25—35
1958. 奄美大島に於けるマベ真珠養殖の概況 貝雑19(3—
4) : 259—267
1958. マベ貝鰓の繊毛運動に及ぼす水温の影響 日水会誌
24(2) : 121—124
1959. 原子力時代の真珠養殖 会報4(1.2) : 23—27
1959. 真珠貝の分布 会報4(6) : 18—24
- 白 井 祥 平, 他 1959. 小湊産アコヤガイの品種に関する研究Ⅱ 会報4
(10) : 3—17
- 白 井 祥 平 1960. 真円真珠の生れるまで 会報5(4) : 1—6
1960. 琵琶湖淡水真珠を訪ねて 会報5(4) : 24—28
- 滋賀県経済部水産課 1959. 滋賀県真珠養殖業の概況 会報4(8.9) : 22—25
- 静岡県水産課 1960. 静岡県真珠養殖業の概況 会報5(1) : 32—34
- 静岡県水産試験場 1959. 垂下水位の相違による真珠光沢、附着雑物と斃死に
ついて 静岡水試事報(昭和30.31年度) : 113
1959. 浜名湖に於ける真珠養殖試験 全上 : 113—114
- 佐々木幸祐 1958. 春先の作業について 会報2(3) : 17—18

水産庁漁業調整第2課 1952. ダイヤモンド政策について 真珠養殖業資料
第1輯 PP. 39

- 鈴木 一 善 1957. アコヤガイとその生育環境の生化学的研究 I 肉質
プランクトン底質化学成分の季節的变化について
真研報 2 : 57—62
1957. 全上 II アコヤガイ肉及びプランクトンのアミノ酸
組成について 全上 2 : 63—67

〔T〕

田畑 三郎 林 英雄

1954. 真珠及び真珠貝に関する研究 大阪工業技術試験所
季報 5(3) : 1—3

高 石 啓 三 1960. 真珠核界の概況 会報5(1) : 17—24

高 山 活 夫 1952. Isotope を応用した真珠形成基礎研究 三重水試時
報 169 : 18—29

高山 活夫, 中原 皓

1956. 挿核手術時における外套膜上皮細胞の剥落について
真研報 1 : 14—17

高 山 活 夫 1957. 国立真珠研究所の紹介 水増3(4) : 18—22

1957. 昨年度真珠貝斃死についての研究報告及び対策
会報 1 : 4—16

1957. 夏期の真珠貝の斃死問題について 会報 2 : 21—25

1957. 「施術作業」シリーズの討議にあたって 会報 5 :
15—16

1957. 「施術作業」シリーズ ピースについて 会報 6 :
8—11

1958. 浜上げ珠の処理について 会報 8 : 14—19

1958. 中国、九州の真珠養殖業雑感 (1) 会報3(1) : 3—5

1958. 全上 (2) 長崎県の巻 会報3(2) : 3—11

1958. 全上 (3) 大分県の巻 会報3(4) : 11—14

1958. 和歌山県の真珠養殖業 会報3(6) : 5—12

高山 活夫, 和田 浩爾

1958. 真珠品質に及ぼす薬品処理の影響 I 真研報4 : 329
—334

- 高山 活夫 1959. 真珠貝の養殖について 会報4(6) : 10—15
 1961. 生産される真珠の品質からみた大分県下真珠養殖漁場の類型区分 会報5(6—12) : 10—17
 1961. 真珠研究の現状と養殖技術 会報6(1) : 1—10
- 高木 豊, 田中 正三 1955. 真珠の生化学的研究(第5報) あこや貝の色素(1) 日化雑76(4) : 406—409
- 高木 豊 1956. 全上(第6報) あこや貝の色素(2) (Porphyrinideについて) 日化誌77(1) : 1707—1712
- 竹村 嘉夫 1955. シロチヨウガイ (*Pinctada maxima* Jameson) の空中活力についての一知見 水増3(2) : 57—59
 1955. シロチヨウガイ (*Pinctada maxima* Jameson) の金縁銀縁について 水増3(3) : 53—56
- 竹村 嘉夫, Okutani, T., 1955. Notes on attached animals on the silverlip pearl oyster *Pinctada maxima* (Jameson) collected from “East” fishing ground of the Arafura Sea. 日水会誌21(2) : 92—101
- 竹内 敏夫 1960. 穴明母介養殖方法について 会報5(5) : 11—12
- 田辺 覚 1960. チリ津波災害に対し我が船越真珠組合が採った処置 会報5(3) : 26—27
- 田辺 時生 1957. 中小厘珠に対する母貝の仕立順序の1例 会報3:17
- 田辺 時生, 田 畑 良 1957. 施術作業シリーズ 中小珠の施術について(第1回) 会報5 : 17—21
 1957. 全上(第2回) 会報6 : 11—14
 1957. 全上(第3回) 会報7 : 12—14
- 田辺 時生 1959. 挿核技術の研究(1) 挿核1個のばあいの挿核位置について 会報4(1,2) : 20—23
 1959. 全上(2) 会報4(4) : 15—18
 1961. 全上(Ⅲ) 会報6(2) : 26—28
- 田村 正 1960. 浅海増殖学(水産学全集2) PP. 331 恒星社厚生閣 東京

田中 正三, 波多野博行

1952. Studies on the seasonal changes in the chemical constituents of the pearl oyster. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. 2(2) : 341—355

1952. 真珠に関する生化学的研究 (第1報) あこや貝成分の季節的变化について 日化雑73(12) : 870—873

1953. 全上 (第2報) あこや貝無機成分の季節的变化について 日化雑 74(2) : 74—76

田中 正三 他 1953. 全上 (第3報) Conchiolin のアミノ酸について 日化雑 74(3) : 193—197

田中 正三, 波多野博行

1955. 全上 (第4報) あこや貝によるカルシウムの吸収とその貝殻および真珠への沈着について 日化雑76(6) 602—605

1956. ^{45}Ca を使用する真珠および貝殻形成の化学機構の研究 アイソトープ研究利用総覧 : 307—311

1957. 真珠の化学 水増3(4): 38—45

田中 彌太郎 1958. アコヤガイ幼生の同定について 貝雑19(3—4) : 215—218

丹下 孚 1957. 第2回研究会における「卵抜き」の問題に関する討議の概要 会報 2 : 27—31

1960. 真珠養殖業における技術発達の構造 (上) 漁業経済研究8(4) : 21—33

1960. 全上 (下) 全上9(1) : 19—34

立石 新吉, 安達 甫朗

1957. アコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) の生殖巣の周年変化に関する組織学的観察 長大水産学部研報 5 : 41—52

谷口宮三郎 他 1959. 真珠養殖におけるいわゆるク貝そうじクの効果に関する研究 I 貝そうじ及びかご交換の回数と附着生物量の変化について 真研報 5 : 482—488

高岡 斎 1957. 真珠養殖の研究 (1) 真研報 3 : 246—250

時岡 隆, 山路 勇

1950. (英虞湾の真珠漁場に関する研究) 第2報 英虞湾ブ

ランクトンの量的分布 (京大生理生態) 70 : 5—18

時岡 隆, 山路 勇

1950. 英虞湾の真珠漁場に関する研究 第3報 英虞湾プランクトンの質的分布 全上71 : 19—61

外海政治 1952. 鹹水湖を利用する真珠貝の集約的採苗試験 三重水試時報 4 : 1—6

1952. アコヤガイ稚貝の光線による移動 真研2(3) : 5—8

1958. 母貝業界の考え方 会報3(4) : 1—5

1959. 愛媛県→三重県真珠稚貝輸送事業について 会報 3(9) : 17—22

遠山宣雄 1961. 千葉県館山湾に於ける真珠養殖の見通しについて 会報5(6—12) : 31

豊原義一 1950. 英虞湾の真珠漁場に関する研究 第1報 深谷水道に於ける海水の交流量に就いて (予報) 京大生理生態 69 : 1—4

豊島友光他 1958. アコヤガイ (*Pinctada martensii* (Dunker)) の成長度と環境条件について 長崎大学水産学部研報 6 : 97—106

辻井禎他 1954. 貝殻及び真珠形成機序の radioautography による研究特に Ca^{45} 及び P^{32} の分布について 日水会誌20(2) : 107—111

辻井 禎 1957. アコヤ貝の捕食に就いて 会報 6 : 18—21

辻井 禎, 大西 侯彦

1957. アコヤガイの濾過水量及び捕食の実験的研究 I 濾過水量について 真研報 3 : 194—201

辻井 禎 1960. Studies on the mechanism of shell and Pearl-formation in mollusca 三重大水産学部化要5(1) : 1—70

都築良康 1952. 真珠養殖の二要点 水産界 818 : 36—41

1957. 日本産アコヤガイ属の種類に就いて 会報4 : 23—25

1957. 真珠成因の歴史について 水増3(4) : 16—18

茶木洋二 1958. 母貝育成に関する研究 (1) 浜島湾迫子浦に於ける母貝育成について 会報3(8) : 9—13

茶 木 洋 二 1960. 合成繊維籠の形式別に依る真珠の巻きの差異について 会報4(12) : 24—27

茶木 洋二, 田所 瑛

1962. 全上 (2) クレモナパールネット段籠、金網平籠、金網トランク籠を使用した場合の母貝育成について 会報39 : 40—44

茶 木 洋 二 1962. 母貝育成に関する研究 (3) 種々の養殖方法がアコヤ貝の生長に及ぼす影響について 会報39 : 45—50

〔U〕

羽 原 又 吉 1957. 真珠二題 水増3(4) : 12—16

内田 洋一, 上田 正康

1947. 真珠の色と光沢について 京都大学総合研究体制研究報告 13 : 26—35

1947. 真珠の層状構造と iridescence に就いて 生理生態 1(3) : 171—177

内 田 洋 一 他 1954. 分光光度計による真珠の色の測定 応用物理23(10) 469—474

1955. 全上(II) 全上24(8) : 325—332

植 本 東 彦 1957. 卵抜きに関する組織学的研究 会報 2 : 31—33

1957. アコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) の生殖腺に関する研究 I 卵抜き作業中の変化についての組織学的観察 真研報 3 : 183—193

1958. 全上 II 周年変化及び卵抜き作業中の変化についての組織学的観察 真研報 4 : 287—307

1959. アコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) の鰓の色調について 真研報 5 : 418—423

植本 東彦, 谷口宮三郎

1959. アコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) の生殖腺に関する研究 III 避寒漁場における生殖腺及び貝体重量の変化 全上 5 : 424—428

植 本 東 彦 1960. アコヤガイの生殖腺について (特に卵抜き作業とその効果を中心に) 会報 4(12) : 7—24

1960. 母貝仕立の効果について 会報5(5) : 50—53

植本 東彦, 小川 恕人

1961. アコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) の生殖腺に関する研究Ⅳ 生殖腺抽出物質が生殖機能に与える影響 真研報 6 : 576—585

植本 東彦 1961. アコヤガイのそう核手術に関する生理学的研究Ⅰ—Ⅲ 全上 6 : 619—635

上野 福三 1961. アコヤガイの餌料生産と漁場の海洋構造について 会報6(1) : 21—23

上野 福三, 井上 啓晴

1961. 真珠漁場における餌料基礎生産と漁場の海洋構造についてⅠ 密殖と食物連鎖の関係 真研報 7 : 829—864

上岡 康達, 酒井 博行

1959. アコヤ貝の生育環境に関する研究 (1) アコヤガイの成長と海水中の溶存カルシウム量について (2) 各養殖場に於ける栄養塩類について (3) アコヤガイ肉の季節的变化について 愛媛県真珠及び真珠貝養殖に関する試験研究報告 : 59—64

宇野 寛 1957. アワビによる真珠養殖 水増3(4) : 92—95

[W]

和田 浩爾 1956. アコヤガイ介殻構造の電子顕微鏡的観察 真研報 1 : 1—6

1956. X線廻折及び示差熱分析によるアコヤガイ介殻成分に関する研究 全上 1 : 7—9

1957. アコヤガイ介殻構造の電子顕微鏡的観察Ⅱ 真珠層表面の Aragonite Crystals の観察 全上 2 : 74—85

1957. 全上Ⅲ 介殻の層状構造 全上 2 : 86—93

1957. 介殻真珠層表面に成長したる結晶の観察 科学と写真の会2(5) : 2

1957. 真珠形成初期の顕微鏡的観察 真研報 3 : 167—174

1957. 真珠の渦巻き成長 金属物理3(2) : 77—78

1957. 真珠の構造 水増3(4) : 51—54

1957. 電子顕微鏡による養殖真珠の層状構造の観察 I
真珠層真珠 日水会誌 23(6) : 302—305
1958. 真珠加工の基礎問題 (1) 真珠の構造と成分 会報
3(2) : 11—14
1958. 全上 (2) 真珠品質に及ぼす熱の影響 会報3(3) :
19—21
1958. 全上 (3) 真珠品質に及ぼす化学薬品の影響 会報
3(6) : 18—21
1958. 真珠の形成及び品質 会報3(7) : 22—32
1958. 樹脂核を使用した養殖真珠 会報3(8) : 14—18
1958. 真珠形成初期の顕微鏡的観察 II 真研報 4 : 251
—260
1958. アコヤガイ介殻の構造及び成長 I 結晶構造 全上
4 : 261—274
1958. X線廻折及び示差熱分析による各種養殖真珠の成分
に関する研究 全上 4 : 275—282
1958. The crystalline structure on the nacre of pearl
oyster shell 日水会誌24(6.7) : 422—427
1959. 真珠形成初期の顕微鏡的観察 III 真研報 5 : 357—
372
1959. 全上 IV 全上 5 : 373—380
1959. 真珠養殖過程中におけるアコヤガイの生活活動の変
化が真珠形成に及ぼす影響 I 衰弱した貝での真珠
形成 全上 5 : 381—394
1959. On the arrangement of aragonite crystals in
the inner layer. 日水会誌25(5) : 342—345
1960. Crystal growth on the inner shell surface of
Pinctada martensii (Dunker). Jour. Electron-
microscopy 9(1) : 21—23
1960. The relation between the crystalline structure
of the cultured pearls and the elongation of
the transplanted mantle tissue in the process
of the pearl-sac formation. Bull. Jap. Soc. Sci.
Fish. 26(6) : 549—553

- 和田 浩 爾 1961. 真珠養殖過程中におけるアコヤガイの生活活動の変化が真珠形成に及ぼす影響Ⅱ 表面構造と光沢の季節的变化 真研報 6 : 586—606
1961. Crystal growth of molluscan shells 全上 7 : 703—828
1961. 潮彼岸珠について 会報6(1) : 34—37
- 和田 清 治 1947. アンモニア海水によるアコヤ貝の人工受精 日水会誌13(2)
1947. アコヤガイの雌雄性と年令及び生長率 水増3(4) : 75—79
1953. シロチヨウガイとその漁業について 水産増殖叢書 No. 1 PP. 40
1957. 卵抜き及び卵止めに關する一考察 水増3(4) : 80—88
- 和田 清 次 他 1960. マベ *Pteria penguin* (Roding) の増殖に關する基礎的研究Ⅲ 幼生の飼育と後期発生 鹿児島水試事報(昭和33年度) : 10—12
- 協 專 一 1960. 真珠母介の生産について 会報5(2) : 8—11
- 渡 部 哲 光 1950. 真珠の巻きに及ぼす環境の影響 真研1(1) : 9—12
1950. 真珠の層状構造 真研1(2) : 3—7
1950. アコヤ貝の介殼重量の年令的变化、特に真珠層稜柱層との關係に就いて 真研1(3) : 6—10
1951. 所謂「潮珠（又は潮彼岸珠）」に就いて 真研 2(1. 2) : 27—31
1951. 真珠の核の半径の測定法 真研2(1. 2) : 32—39
1952. 挿核手術直後の作業貝斃死率に及ぼす季節水温の影響に就いて 真研2(3) : 19—27
1952. 真珠の層状構造 真研2(3) : 31—33
1952. アコヤ貝に於ける真珠の巻きと水温との關係 真研 2(4) : 21—26
1952. 養殖真珠の断面に見られる特殊の層線とそれが形成される環境条件に就いて 真研2(4) : 27—34
1954. Electron-microscopic observations of the aragonite crystals on the surface of cultured pearls.

- I. Rep. Fac. Fish. Pref. Univ. Mie, 1(3) : 449—454
- 渡部 哲光 1955. The observation of the surface structure of the cultured pearls relating to the color and the luster. Rep. Fac. Fish. Pref. Univ. Mie, 2(1) : 18—26
1955. Relations between the qualities of the cultured pearl and the culture-depth, and the position of the nucleus-insertion. Bull. Biogeograph. Soc. Jap. 16—19 : 93—97
- 渡部 哲光 Wada, K.,
1956. On the shell structures of Japanese Pearl Oyster, *Pinctada martensii* (Dunker). 1. Prismatic Layer 1. Rep. Fac. Fish. Pref. Univ. Mie, 2(2) : 227—232
1956. Dahllite identified as a constituent of prodissoconch I of *Pinctada martensii* (Dunker). Science, 124 (3223) : 630
1956. アコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) ‘第一原殻’, 稚貝貝殻, および真珠の電子線解析 科学26 (7) : 359—360
- 渡部 哲光 岡田彌一郎
1957. 綜合アミノ酸によるアコヤガイ人工排卵について 水増3(4) : 89—91
- 渡部 哲光 他 1957. Ca^{45} によるアコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker) 稚貝の貝殻形成に関する研究—海水及び餌料よりの摂取の比較 日水会誌23(3) : 139—143
1957. アコヤ貝 *Pinctada martensii* (Dunker) の養殖真珠の品質と養殖深度との関係Ⅱ 日水会誌23(5) : 235—240
- 渡辺 万次郎 1950. 真珠の層状構造に就いて 真研1(3) : 1—3

〔Y〕

- 山際 新栄門 1960. 夏期高水温時に於ける作業員の取扱いについて

- 会報5(5) : 12—15
- 山 際 新 栄 門 1961. あこや貝の健康度と珠の歩留成績について 会報 6
(1) : 11—13
- 山 口 一 登, 他 1956. 真珠母貝の成長に関する研究Ⅰ 養殖籠の収容密度
及び貝掃除の回数が成長に及ぼす影響について
真研報 1 : 18—21
- 山 口 一 登 1956. 真珠養殖における垂下様式と真珠の巻き及び色につ
いて 全上 1 : 22—24
1957. 真珠養殖におけるいわゆる「卵抜き」に関する一考
察 真研報 2 : 133—136
- 山 口 一 登, 他 1957. 養殖環境と挿核部位による真珠の色及び巻きの差異
について 全上 2 : 137—141
- 山 口 一 登 1958. 母貝ピース貝の年令差による真珠の色及び巻きの差
異について 全上 4 : 325—328
1958. 真珠の品質に及ぼす貝掃除の効果 会報 2(2) : 8
—10
1958. 母貝の年令差による真珠品質の差異について 会報
2(3) : 7—9
1958. ピース貝の年令差による真珠品質の差異について
会報3(1) : 1—3
1959. 「後付け」と「同時付け」による真珠品質の比較
会報4(3) : 13—15
1959. ♫後付け法♫に関する研究Ⅰ ♫後付け♫及び♫同
時付け♫による真珠品質の比較 真研報 5 : 499
—502
1961. ♫あとづけ♫に関する研究Ⅱ 卵抜きの程度と真珠
袋形成との関係 全上 6 : 636—641
- 山 口 菊 男 1957. 総合アミノ酸 (パールスパン) によるアコヤガイの
人工排卵 (Ⅰ) 会報 4 : 8—16
1957. 全上 (Ⅱ) 会報 4 : 16—18
1960. ♫伊豆地方の真珠養殖♫雑感 会報4(11) : 19—22
1960. 全上一卵抜に就いて— 会報5(2) : 46—48
- 山 口 正 男 1947. 田辺湾の真珠介における病貝 (黄貝) の出現率につ
いて 医学と生物学11(6) : 395—397

- 山 口 正 夫 1955. アコヤガイの養殖とその真珠 水産増殖叢書 No.9
PP. 85 水産庁
1957. 黒蝶貝の真珠養殖 水増3(4) : 96—99
1957. カラスガイ類の真珠養殖 水増3(4) : 102—103
1960. 真珠貝の寄生虫 *Bucephalus margaritae* のこと
会報5(5) : 47—49

山口県外海水産試験場

1951. 真珠貝に関する調査並試験 I 資源分布調査 II 真
珠漁場に関する海況調査 III 採苗基礎調査 IV アコ
ヤ稚貝出現調査 V 真珠稚貝移殖調査 山口県外
海水試事成報(昭和26年度) : 129—164
1953. あこや貝採苗並真珠養殖試験 全上(昭和27年度) :
168—174
1954. 真珠養殖試験 全上(昭和28年度) : 280—283
1954. あこや稚貝採苗試験 全上(昭和28年度) : 283—
288
1954. 感光色素による稚貝成長試験 全上(昭和28年度) :
288—291
1956. 真珠養殖試験 全上(昭和30年度) : 34—45
- 山口県水産課 1960. 山口県真珠養殖業の現況 会報4(12) : 37—39
- 山川修佑造 1957. 大珠作業に於ける母貝仕立会報4 : 7—8
- 山川修佑造, 他 1960. 挿核に思う(アンケート) 会報5(3) : 28—34
- 山下信一郎 1957. 真珠に対する感光色素の効果について 日本感光色
素研報1 : 1—10
1958. 感光色素による真珠貝細胞処理に於ける真円真珠形
成率の増加について 全上7 : 1—12
1958. 感光色素による真珠細胞処理濃度について 全上8 :
1—4
1958. 感光色素による真珠貝硫化水素中毒斃死の防止につ
いて 全上8 : 5—8
1958. プラトニン、ネオキシソ併用真珠に対する細胞処理
成績比較1例 全上8 : 9—10
1958. 真珠命題の感光色素による解決について 全上11 :
1—11

山下信一郎, 安井 茂夫

1961. 感光色素処理による細胞（外套膜ピース）が優良真珠を形成する実例と考察 山陽技術雑誌15(1) : 41—48 会報6(2) : 14—25

山 内 栄

1958. 真珠雑感(I) アコヤガイと環境 (1) 会報3(3) : 13—18

1958. 全上(II) 全上 (2) 会報3(4) : 15—20

1958. 全上(III) 挿核後の養生 会報3(6) : 21—25

1959. 全上(IV) 卵抜き作業 会報3(9) : 23—27

1959. 全上(V) 貝まわし—特にイクスを利用した貝の輸送について— 会報3(10) : 29—32

1959. 全上(VI) 貝掃除 会報3(11) : 13—17

吉 田 讓 太 郎

1954. 真珠介採苗試験(昭和26年度) 福井水試事報2(3) : 1—6

1954. 真珠母介潜水調査 全上2(3) : 6—8

吉田讓太郎, 泉 幸四郎

1954. 真珠介採苗試験(昭和27年度) 全上2(3) : 12—17

吉 田 讓 太 郎

1954. 小浜湾に於ける稚介採苗適地調査について 全上2(3) : 18—19

1954. 真珠介の成長度調査について 全上2(3) : 20

1954. 杉葉採苗器による稚介の附着状況調査 全上2(3) : 21

1954. 小浜湾に於ける真珠稚介採苗試験 全上2(3) : 27—66

吉田讓太郎, 泉 幸四郎

1955. 小浜湾に於ける真珠増殖事業 全上(昭和29年度) : 147—150

吉 田 讓 太 郎

1956. 小浜湾に於ける真珠増殖試験 全上(昭和30年度) : 184—185

結 城 了 伍

1950. アコヤ貝のタンク培養(I) 真研1(1) : 7—8

結城 了伍, 小林新二郎

1950. 全上(II) 真研1(2) : 10—16

1951. アコヤガイ稚貝雑録(II) 真研2(1.2) : 12—19

結 城 了 伍

1951. アコヤガイ鰓の纖毛運動 真研2(1.2) : 44—55

これは最近挿核施術の時の添加栄養剤として使用されている薬品の試験結果の報告であり、会員諸氏は直接真珠の浜揚に影響する身近な問題であるため、非常に熱心に聞き入り、又質疑応答も予定時間をはるかにオーバーするほど熱心なものであつた。

午後は養殖真珠の主なる輸出市場である米国に、日本真珠輸出組合囑託として市場調査に赴いていた御木本真珠会社小川茂男氏の米国市場の調査報告があつた。小川氏はその報告の中で、良質真珠の輸出並びに国内業者の協力により現在の買手市場を売手市場に転換するべく努力する必要がある事を強調され、又米国市場は P.R の方法如何によつてはまだまだ大きく伸びる余地のある事を報告され、同日は午後 3 時に閉会した。

当日の講師及び主なる出席者は次の如くであつた。

- | | | |
|----------------------|---------|-------|
| 1) 真珠技術研究会の発足に際して | 全真連専務理事 | 浜本忠史氏 |
| 2) ヨークレシチンの使用と真珠の品質 | 国立真珠研究所 | 町井 昭氏 |
| 3) 米国に於ける養殖真珠の市場調査報告 | 御木本真珠会社 | 小川茂男氏 |

出席者(順不同敬称略)

三重県水産試験場	山口		
富士真珠研究部	茶木	青木(駿)	
金子真珠	金子岩三		
共栄水産	山本一彦		
島田真珠			
真和真珠	作田		
井上物産 K K	井上		
みつわ真珠	矢野	井沢	
榊原真珠	中北	村田	
極東真珠			
世紀パール	2名		
大畑真珠	田中(剛)		
丸真真珠	大畑	村田	田中(喜)
平賀金網	平賀		
岩常真珠	中島		
嶋田真珠	若松		
浜文真珠	浜口		
竹清真珠			

神原漁協青年部	中村						
三重県庁	藤田	浅原					
愛媛県真珠養殖漁協	田中(一)	猪野					
三重県立大学	辻井						
商工中金津支店	池田						
紀州	奥村						
片田	平賀						
賢島	大畑(博)						
南海	大畑(真)	竹内	村田(忠)	青木(修)			
神明	中北						
御座	山川	山本					
越賀	井上						
伊勢市	入交	青木(若)					
南島町	浜地	小島	梅谷	浜地	大野	中道	
五ヶ所	幸田						
紀勢町	中西						
尾鷲市	森田						
愛媛県	梅津	吉田	渡辺(素)	田中			
滋賀県	外山	渡辺(欣)					

全国真珠養殖漁業協同組合連合会の会員及び役員

本部 東京都中央区京橋3の7（日本真珠会館）
 支部 伊勢市岩淵町84の2（真珠会館）

会 員

会 員 名 全国真珠養殖漁業協同組合
 所 在 地 三重県伊勢市岩淵町84の2
 組 合 長 松 尾 圭 起

会 員 名 長崎県真珠養殖漁業協同組合
 所 在 地 長崎県大村市西本町537
 組 合 長 井 沢 次 男

会 員 名 和歌山県真珠養殖漁業協同組合

所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田
組 合 長 堅 田 輝 昭

会 員 名 愛媛県真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 愛媛県宇和島市向新町19
組 合 長 大 月 成 男

会 員 名 佐賀県真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 佐賀県佐賀市県庁水産課気付
組 合 長 吉 田 寛 司

会 員 名 布施田真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡志摩町布施田
組 合 長 南 平 左 衛 門

会 員 名 越賀真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡志摩町越賀
組 合 長 鵜丹谷 彌十郎

会 員 名 船越真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡大王町船越
組 合 長 山 際 定 衛 門

会 員 名 鹿児島県真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 鹿児島県鹿児島市堀江町24
組 合 長 黒 木 貞 雄

会 員 名 浦ノ内真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 高知県高知市丸の内県庁水産第二課気付
組 合 長 福 本 茂 明

会 員 名 紀州真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県北牟婁郡海山町大字矢口浦915
組 合 長 住 屋 巳 之 助

会 員 名 間崎真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡志摩町和具4341
組 合 長 岩 城 常 三

会 員 名 神明真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡阿児町神明
組 合 長 松 尾 圭 起

会 員 名 南海真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県度会郡南勢町迫間浦
組 合 長 中 村 忠 臣

会 員 名 片田真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡志摩町片田
組 合 長 浜 口 文 吉

会 員 名 鵜方真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡阿児町鵜方
組 合 長 西 崎 貞 三 郎

会 員 名 南島真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県伊勢市宮町
組 合 長 岸 栄 松

会 員 名 的矢湾真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡磯部町三ヶ所
組 合 長 北 健 治

会 員 名 三重県浜島町真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡浜島町大字浜島1780
組 合 長 大 西 楠 治 郎

会 員 名 南志摩真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡大王町船越809

組 合 長 北 村 英 一

会 員 名 立神真珠養殖漁業協同組合

所 在 地 三重県志摩郡阿児町立神

組 合 長 中 井 宗 五 郎

会 員 名 和具真珠養殖漁業協同組合

所 在 地 三重県志摩郡志摩町和具

組 合 長 松 田 音 吉

会 員 名 御座真珠養殖漁業協同組合

所 在 地 三重県志摩郡志摩町御座

組 合 長 山 本 世 樹

会 員 名 五ヶ所真珠養殖漁業協同組合

所 在 地 三重県度会郡南勢町五ヶ所浦944

組 合 長 西 井 善 四 郎

会 員 名 対馬真珠養殖漁業協同組合

所 在 地 長崎県下県郡厳原町今屋敷649

組 合 長 齊 藤 滋 夫

会 員 名 的矢地区真珠養殖漁業協同組合

所 在 地 三重県志摩郡磯部町の矢889

組 合 長 佐 藤 忠 揚

会 員 名 鳥羽真珠養殖漁業協同組合

所 在 地 三重県鳥羽市鳥羽町商工会館内

組 合 長 野 上 茂 男

会 員 名 御浜真珠養殖漁業協同組合

所 在 地 三重県志摩郡阿児町鵜方

組 合 長 北 村 満 津 郎

会 員 名 鷗方相生真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡阿児町鷗方
組 合 長 渡 辺 賢 次 郎

会 員 名 宿浦真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県度会郡南勢町宿浦
組 合 長 川 口 欣 三

会 員 名 波切真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県志摩郡大王町波切漁業協同組合魚市場事務所内
組 合 長 林 一 雄

会 員 名 全南島町真珠養殖漁業協同組合
所 在 地 三重県度会郡南島町神前浦
組 合 長 大 野 一 美

役員顧問及び相談役

会 長 御 木 本 美 隆
住 所 東京都港区麻布宮村町42
所 属 組 合 三重県浜島町真珠養殖漁業協同組合

副 会 長 松 尾 圭 起
住 所 三重県志摩郡阿児町神明755
所 属 組 合 全国真珠養殖漁業協同組合 神明真珠養殖漁業協同組合

副 会 長 井 沢 次 男
住 所 長崎県大村市久原郷2の37
所 属 組 合 長崎県真珠養殖漁業協同組合

専 務 理 事 高 橋 泰 彦
住 所 東京都新宿区百人町4の450 戸山アパート内

専 務 理 事 浜 本 忠 史
住 所 三重県伊勢市本町110 小林方

常務理事 住 所	井 上 巖 三重県伊勢市岩淵町500
常務理事 住 所	荻 原 孝 之 三重県伊勢市吹上町274
常務理事 住 所 所 属 組 合	堅 田 輝 昭 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田1470 和歌山県真珠養殖漁業協同組合
常務理事 住 所 所 属 組 合	大 月 成 男 愛媛県宇和島市妙典寺前三区 愛媛県真珠養殖漁業協同組合
常務理事 住 所 所 属 組 合	吉 田 寛 司 佐賀県東松浦郡玄海町今村5188 佐賀県真珠養殖漁業協同組合
常務理事 住 所 所 属 組 合	南 平 左 衛 門 三重県伊勢市宮後町 布施田真珠養殖漁業協同組合
常務理事 住 所 所 属 組 合	鵜丹谷 彌十郎 三重県志摩郡志摩町越賀764 越賀真珠養殖漁業協同組合
常務理事 住 所 所 属 組 合	中 村 正 一 三重県志摩郡大王町船越1074 船越真珠養殖漁業協同組合
理 事 住 所 所 属 組 合	黒 木 貞 雄 鹿児島県肝付郡佐多町伊座敷3921 鹿児島県真珠養殖漁業協同組合

理 事	福 本 茂 明
住 所	高知県須崎市浦之内塩間56
所 属 組 合	浦ノ内真珠養殖漁業協同組合
理 事	住 屋 巳 之 助
住 所	三重県北牟婁郡海山町矢口浦95の12
所 属 組 合	紀州真珠養殖漁業協同組合
理 事	岩 城 常 三
住 所	三重県志摩郡志摩町和具4239
所 属 組 合	間崎真珠養殖漁業協同組合
理 事	大 井 田 正 経
住 所	三重県志摩郡阿児町神明74の1
所 属 組 合	神明真珠養殖漁業協同組合
理 事	北 村 一 衛
住 所	三重県度会郡南勢町迫間浦534
所 属 組 合	南海真珠養殖漁業協同組合
理 事	浜 口 文 吉
住 所	三重県志摩郡志摩町片田2752
所 属 組 合	片田真珠養殖漁業協同組合
理 事	西 崎 貞 三 郎
住 所	三重県志摩郡阿児町鵜方
所 属 組 合	鵜方真珠養殖漁業協同組合
理 事	岸 栄 松
住 所	三重県度会郡南島町阿曾浦197の8
所 属 組 合	南島真珠養殖漁業協同組合
理 事	北 健 治
住 所	三重県志摩郡磯部町三ヶ所466
所 属 組 合	の矢湾真珠養殖漁業協同組合

理 事 大 西 楠 治 郎
住 所 三重県志摩郡浜島町浜島1780
所 属 組 合 三重県浜島町真珠養殖漁業協同組合

理 事 北 村 英 一
住 所 三重県志摩郡大王町船越809
所 属 組 合 南志摩真珠養殖漁業協同組合

理 事 中 井 宗 五 郎
住 所 三重県志摩郡阿児町立神2630
所 属 組 合 立神真珠養殖漁業協同組合

理 事 松 田 音 吉
住 所 三重県志摩郡志摩町和具2260の1
所 属 組 合 和具真珠養殖漁業協同組合

理 事 山 本 世 樹
住 所 三重県志摩郡志摩町御座225
所 属 組 合 御座真珠養殖漁業協同組合

理 事 西 井 善 四 郎
住 所 三重県度会郡南勢町五ヶ所浦1031の1
所 属 組 合 五ヶ所真珠養殖漁業協同組合

理 事 齊 藤 滋 夫
住 所 長崎県下県郡美津島町濃部199
所 属 組 合 対馬真珠養殖漁業協同組合

理 事 佐 藤 忠 揚
住 所 三重県志摩郡磯部町の矢889
所 属 組 合 町の矢地区真珠養殖漁業協同組合

理 事 野 上 茂 男
住 所 三重県伊勢市常磐町270

所 属 組 合 鳥羽真珠養殖漁業協同組合

理 事 北 村 満 津 郎
住 所 三重県志摩郡阿児町鵜方942の1
所 属 組 合 御浜真珠養殖漁業協同組合

理 事 渡 辺 賢 次 郎
住 所 三重県志摩郡阿児町鵜方
所 属 組 合 鵜方相生真珠養殖漁業協同組合

理 事 林 一 雄
住 所 三重県志摩郡大王町波切
所 属 組 合 波切真珠養殖漁業協同組合

理 事 川 口 欣 三
住 所 三重県度会郡南勢町宿浦
所 属 組 合 宿浦真珠養殖漁業協同組合

理 事 大 野 一 美
住 所 三重県度会郡南島町賛浦
所 属 組 合 全南島町真珠養殖漁業協同組合

監 事 田 崎 甚 作
住 所 長崎県大村市壺ノ郷132
所 属 組 合 長崎県真珠養殖漁業協同組合

監 事 田 辺 耕 治
住 所 三重県志摩郡志摩町和具1933の7
所 属 組 合 和具真珠養殖漁業協同組合

監 事 西 岡 健 一
住 所 三重県志摩郡志摩町布施田277の1
所 属 組 合 布施田真珠養殖漁業協同組合

監 事 森 正 男
住 所 神戸市生田区加納町4丁目1の128
所 属 組 合 愛媛県真珠養殖漁業協同組合

顧 問 大 月 菊 男
住 所 神戸市葺合区二宮町1の4

相 談 役 高 島 吉 郎
住 所 東京都港区芝公園 5 号地12

相 談 役 山 本 勝
住 所 神戸市生田区山本通 2 の77

相 談 役 横 田 稔
住 所 神戸市灘区篠原北町 2 の12

相 談 役 山 本 清 松
住 所 京都市左京区松ヶ崎桜木町17の9

相 談 役 北 村 勤
住 所 神戸市生田区山本通 3 の 1 の 2

相 談 役 村 田 は ま り
住 所 神戸市生田区山本通 4 の97

相 談 役 三 輪 邦 彦
住 所 東京都文京区湯島天神町 3 の38

相 談 役 西 岡 光 夫
住 所 三重県伊勢市吹上町456

業 界 ニ ュ ー ス

輸出態勢強化へ 色もサイズも日本で

産業経済新聞 (37年1月10日)

輸出の花形、養殖真珠はこのところ価格も安定、輸出量は年々ふえ、故御木本幸吉翁が豪語した「世界中の女性のクビを真珠でしめてみせる」というユメの実現に向かつて着実に進んでいる。真珠は36年中にぎつと57トン、3600万ドル(129億6千万円)輸出された。これは35年の51.8トン、2956万ドルを大きく上向いており、5年前の31年に比べても数量、金額とも2倍以上のすばらしい伸び。また価格も3.75グラム(匁)当り2ドル30セントで35年の2ドル13セントにくらべ7%高くなっている。悪い真珠をシャット・アウトして海外市場での信用を高めようという業界必死の努力がようやくみのつてきたのと海外へのPRが効果をおさめたからだ。

真珠は生産の93%までが輸出されている関係で色やサイズなど流行のすべては海外市場の動向できまるが2、3年の養殖期間が必要なため、流行と生産がマッチしにくいのが最大のなやみ、そこで全国真珠養殖漁協組連合会(伊勢市真珠会館内)では、ことしから、真珠のファッションはすべて日本できめると同時に、真珠につながる流行もあわせて輸出しようと計画している。

国内生産の6割は三重県で生産され、他県産の5割も三重の業者が手がけているだけに、同県の業者の動向が世界真珠の進む道をきめることになるというので、業者もこの問題をことし最大の課題として、その具体策に取組んでいる。

東北でも真珠養殖が可能 真珠研、女川で見事成功

水産経済新聞 (37年3月23日)

三重県の国立真珠研究所は東北大付属女川水産研究実験所と宮城県女川町小乗浜青年養殖研究会の協力で昨年5月から女川湾の小乗浜でアコヤ貝200個を使つて真珠の養殖実験を進めてきたが、このほど優秀な真珠を収穫、実験はみごとに成功した。この実験は、これまで関西や四国などの暖水地帯でしかでき

なかつた真珠の養殖が東北の寒い地方でもできるかどうかを調べるため行なわれたもの。

実験は東北では女川湾のほか松島湾、岩手県大船渡湾が選ばれたが、こんどの調査ではいずれも成功しているので三陸地方でもこんど真珠の養殖ができることは確実のようだ。女川湾の実験は3年から4年のアコヤ貝を使い、40個ずつ縄につけ、カキイカダにつるしたもので、死んだのは約10%だつた。

収穫した結果を見ると、真珠は直径4.5ミリの核に2ミリから3ミリの厚さに真珠をまき、形も一番よい丸型が多かつたという。又色もホワイトやピンク系で光沢もあり予想外の大成功だつたと同研究所の西飯技官は語っている。この実験はことしもさらに続けられるが、アコヤ貝は摂氏15度が適温で8度以下では死ぬので春から夏の養殖が有望になりそうだという。

国立真研が初テスト 良質真珠を作る特効薬？

中部日本新聞 (37年4月18日)

最近三重県志摩地方の真珠業界では良質真珠をたくさん生み出すという“特効薬”パールチンが話題となつている。養殖真珠は貝殻で作つた丸い核を真珠貝のなかに入れて作られるが、良質の真珠となつて出るのは全体の2～10パーセント。そこをねらつて良質の真珠が出るという“特効薬”はこれまでもたくさん売り出されているが、養殖界からはほとんど顧みられなかつた。ところがこんどのパールチンは宣伝パンフレットに国立真珠研究所がパールチンの効果をテストした養殖試験の結果がのつているので、業界も反応をみせ、真珠研究所へは毎日のように問い合わせが殺到している。

このパールチンは鶏卵から脂肪を取り出して作る老化防止などの薬品である「ヨークレシチン」の商品名で、真珠用に改良を加えたもの。真珠研究所は昨年大阪府水産試験所から淡水養殖の真珠には効果があつたから海水養殖の真珠に使つてみないか、との連絡があり、初めて取り上げテストした。使用方法是核を入れる貝のピースの部分に塗るか、注射するというもので真珠研究所では浜島産の3年生真珠貝440個を使い、パールチンを塗つただけのものと塗布と注射を組み合わせたものなど5種の養殖試験をし、普通養殖の対照群と比べてみた。この結果は塗布だけのものと、塗布と注射を1,3回組み合わせたものが、初めに入れた直径5.1ミリほどの核では5.8ミリ以上となり、対照群の5.7ミリ以下に比べて巻きが厚く良好な成績を見せた。

しかし真珠研究所は1回だけの試験では確実なことはつかめないとし、ことしも引き続きテストするが、業者からの問い合わせに対しても試験結果の資料

を示すだけで、パールチンの良否については業者の判断にまかせるという態度をとっている。これに対し業者側は真珠研究所のテスト結果のような成績が出るなら薬品代や手間賃は問題ではないとして使うところが多い。もしこのパールチンがほんとうに効果があるということになれば、これまで良質真珠の生産歩合を高めるには核入れ、貝そうじなどの養殖技術と漁場条件をよくすることの二つが考えられていたがこれに新しい要素が加わる事になる。

さくらの女王 真珠に熱心な質問

花やかな鳥羽訪問 毎日新聞 (37年4月21日)

“さくらの女王” フランシス・E・パストーリさん (18) とキヤスリン・ナウスさん (19) は20日午後鳥羽市の真珠島を訪れ、一般観光客にまじつて真珠島見学の楽しい1日を過した。

真珠島では同島の海女さんや職員たち、それに修学旅行の学生、一般観光客にとり囲まれ、女学生たちは“おれがさくらの女王ですつて、きれいね”とささやき合いながらカメラの放列をしいた。

御木本記念館で昼食を済ませ、仲よく海女展望台に立ち6人の海女が水底の貝を拾う水くぐり作業を見ながら“水のなかはまだまだとても冷たいでしょうね”と女性らしい同情ぶり、島内の核入れ作業場では“核を入れるのは貝がどのくらいの大きさになつたときにするのか”“核を入れてから何年水のなかに入れておくのか”と案内役の横浜常務に矢次ばやの質問を浴びせた。

とくに希望して真珠島周辺の島めぐりをしたあと、御木本本社工場でネツクレスの珠を並べる真珠の連組作業を見るなど行くさきざきで花やかな話題をまいた。

一時失業の対策に悩む伊勢職安

真珠従業員の保険加入 伊勢新聞 (37年5月8日)

農林水産関係に対し、失業保険の任意加入が本年度から認められたが、1年に4カ月間も休業する真珠業では休業期間中、ほとんどの従業員が失業することになる。ところが、1事業所の失業者数は全体の50%以下でなければならぬと保険法に定められているため、伊勢職安所ではこれをどう取り扱うかで頭を痛めている。

同職安所管内の失業保険加入事務所数は750で被保険者数は22,700人にのぼてついるが、こんどの漁業水産関係のうち対象となる真珠業は800～900事業所、15,000人で漁業関係を加えると現在の約2倍に近くなる。

ところが、真珠業は毎年12、1、2、3月は休業状態にはいり、15,000人のほとんどが1時失業する。このため、本年度から認可された失業保険に真珠業が全部加入すると10,000人を越える失業者が出来る。一方同保険法によると失業者は従業員の50%以下でなければ保険の加入は認められないことになっており、加入が認められたものの実質的には認められていないのと同じことになる。

この例は同所管内の漁業のうち大敷、あぐりなどでも一定期間の休業があり、この対策に頭を痛めているもの。

すでに今月から志摩郡志摩町和具を皮切りに加入説明会を開き、申し込みを受け付けているが、労働省等当局としては“たくさんはいつてもらうと支払いがかさみ赤字になって困る”といった意向だといわれ、今後の成り行きが注目されている。

真珠養殖の科学研究実る“密殖はよくない”

南勢町の青年グループ理論を実地で証明

中部日本新聞 （37年5月10日）

科学的な真珠養殖を自分たちの手でやろう……………と過去5年間、地味な研究を続けている青年グループがある。三重県度会郡南勢町下津浦の大谷俊裕君(24)ら20才後前の35人で、さる32年、12人の有志たちがまずこの問題と取り組んだ。はじめはお互いに費用を出し合つて器具を買い、水温の測定や海水調査などを手がけたが、34年から神原漁協青年部を組織して研究に本腰を入れ、やつと昨年末、県の職業教育センターに指定され、県と町から各20万円の補助金を受けることになった。現在では採水器、ホーレル水色計、水素イオン比色計、海水循環装置、顕微鏡などの機械を入手し真珠いかだ6台も整えた。このグループが研究の第一にとりあげたのは真珠貝の養殖法で、これまで1台のいかだに1万個、さらに2万個以上の稚貝を吊下げて養殖し「密殖」の傾向が強かつたが、果たして密殖が有利かどうかを科学的に調べた。

まずこの1年間、3台のいかだに5千づり、1万づり、1万5千づりの3種の養殖法を試みたところ5千づりの場合では1個37.5グラム以上の良質貝が非常に多く、1万5千づりに比べて稚貝は単位当たり生産費が約4分の1、いかだ1台あたりの収益も約3倍との結論がでた。これは業界でも理論的にいわれていたもので、実地で証明したのは初めてだと県水試や全真連でこの研究を高く評価している。去る8日、関係者を招いて開かれた研究発表会でも阪本三重県教育課長らはその点をとくに強調した。

青年グループではこのほか衰弱貝、卵貝、斑点貝、黄貝への核入れなどを研究中で、真珠貝養殖についても新たに「3千づりの場合はどうか」など新しい問題に取り組んでいる。

真珠加工に画期的な成果 電気や真空を利用

漂白染色ぐんとよくなる 中部日本新聞 (37年5月30日)

兵庫県立工業奨励館の竹内隆啓化学部長は、真珠の加工に電氣的な方法や真空を応用、真珠質の漂白や染色を短時間で完全に近いものにすることに成功した。これは真珠加工技術を革新し、良質な真珠を増産することができるかと期待されている。

研究の1つは金属のメッキ処理に使う電極を応用する加工法、真珠を入れた漂白液のタンクにプラス、マイナスの電極を立て電気を通ずると電流と漂白液の作用で真珠のハダが漂白できる。もう1つの方法では真空装置の中に真珠を置き、圧力をかけて漂白液を真珠層に浸透させる。この2つの方法は逆に染色の場合にも応用でき、操作が簡単なうえ短時間で薬品処理を終わるため真珠層を荒らさず、光沢もそこなわない。又変色などの事後変化も起こらないという。

養殖場では浜揚げされた真珠は、いきなり装飾品となるものではなく、まず4割はクズ玉として捨てられる。あと6割もほとんどの玉が加工しなければ商品にならない。普通ピンク系統の色合いや、つややかな光沢を持つ上質の玉はわずか数パーセントで、大方は金、黄、緑、青色、その混合色、ドロ玉、又色の度合いが濃いもの、薄いものなどさまざま、これを加工し、天然の美しさをひき出すのが業者の仕事になっている。

しかしいままでの技術では軽いシミ玉や淡青、淡緑、淡黄色の原玉に限られている。これは比較的漂白しやすいためで、金色玉や黄色玉はむずかしい。業界では真珠の漂白や脱色にオキシドールや界面活性剤を使っており着色加工には主染料として塩基性染料や油性染料を用いていた。オキシドールは真珠がハダ荒れし、光沢を失う不安があり長時間の処理でせつかくの上質玉を台なしにすることもしばしば。塩基性の染料は日光などに対する耐光性が悪く、油染でも油自体の酸化現象で2、3年内に変色する可能性があった。

竹内部長の研究は、従来の加工技術を化学的に解明、真珠質の漂白、染色に数倍の効力をもたらし、工程も数段短縮したわけで、真珠業界にこのうえない朗報となるう。

○国立真珠研究所研究課長、理学博士沢田保夫氏の話

画期的な研究といえる。研究過程がくわしくわからないためはつきりしたことはいえないが、シミ玉や淡色玉の処理には効果があがつているようで、今後は金色玉や黄色玉の研究に期待がもたれる。

○日本真珠輸出組合理事長 横田稔氏の話

業界にとつては大きな福音です。できればくわしく研究成果を公表していただきたい。

真珠養殖剤の決定版、感光色素

感光色素の生物への利用は我国で始めて考へられ、今次大戦中陸軍、各大学の研究陣を動員して行われ、非常な成果をあげ、引きつづき文部省、厚生省等より研究班の結成を得て各大学で研究されています。

感光色素プラトニン、ネオキシンは真珠細胞を賦活、活性化し細胞の能力を極めて高いレベルまで発揮させます（真珠研究会会報第38号報文参照）

御試用、御研究の程願上ます。

文献：雑誌感光色素（京都大学医学部・病理学教室発行）日本感光色素研究所報告

感光色素合成元
日本感光色素研究所

（岡山市下石井198 Tel 2-7641）
（連絡所 三重県伊勢市辻町久留190-5 山下信一郎）

養殖場めぐり

—— 佐藤養殖場の巻 ——

養殖場めぐりを始めてから一年、その間紹介した会社は数社を数えますが、今回は、三重県の矢湾の佐藤養殖場を紹介する事に致しました。本文に先立ちお世話になつた佐藤忠勇氏に厚く御礼申し上げます。



的矢養殖場施設の全景

(1) 沿革

有限会社佐藤養殖場は、同社の取締役佐藤忠勇氏が、大正9年本社を東京に置き、養殖場的矢に置く、的矢湾真珠株式会社の設立と同時に東京より、常務取締役として就任された時に創まると云える。当初は、資本金10万、従業員15名で発足し、年産30万個を目標に、主として透導式挿核法により半円真珠を生産した。しかしようやく発展期を迎えようとした矢先、真珠市場の値下り及び関東大震災等の為、会社は打撃を受け、佐藤氏の努力の甲斐もなく、昭和3年解散の止むなきに至つた。

会社の解散に先立ち、佐藤氏は昭和2年たまたま、真珠養殖筏に付着したカキの生長の良好なのに目をつけ、同3年会社の解散後、垂下式養蠔業を始めた。翌年筏を50台に増し、本格的に増産体制をしき販売面では、東京、大阪の市場に出荷をはじめ、的矢カキの名を高めた。昭和5年、的矢湾養蠔研究所を設立、養蠔業の傍ら、的矢湾の海洋学的調査及びカキ養殖の研究に着手した。そ

の後、養蠣業は発展期を迎え、昭和10年にはカキ筏350台従業員200名を擁し、年5万貫を生産した。昭和13年カキ市場の暴落となり、販売面の行詰まりから、筏を200台に縮少、一方販売方法も市場出荷と併せて、ホテル等の直接販売方式を採り、安定販売先を確保した。戦時中は、カキの価格統制の必要から三重県養蠣組合（組合員100名）を結成その要職にあり、組合事業につくした。



的 矢 漁 場 の 全 景

戦後、組合の解散後、佐藤忠揚氏を経営陣に迎え従業員20名程度で養蠣業の傍ら、的矢湾の継続的な調査を行っていたが、昭和24年佐藤忠揚氏は、真珠養殖業が隆盛とみるや今迄のカキ養殖の経験を活し、的矢湾の優秀性から見て真珠養殖業に踏切つた。当初は、色の試験からはじめ、黒貝10,000個を購入、翌25年1月はじめて、5—6ミリの珠の生産を見たが、程んどの珠がピンクであり、非常に相場が高く、1匁当り10,000円の高値で販売する事が出来た。

昭和25年、前年の経験から同養殖場は真珠の有利性に自信を得（従業員20名、作業員数5万で）真珠養殖業の拡充を積極的にはじめた。天然の好漁場と従来のカキ養殖の経験を活し、7、8ミリを主力とする生産方法を採用、折からの大珠需要の波にのり、急速に発展して行つた。昭和31年従来個人企業から脱皮し、社名を有限会社佐藤養殖場と改め、資本金300万とし、社長に佐藤忠揚氏が就任した。昭和34年加工部門にも進出し、東京に資本金150万の有限会

社佐藤を設立、加工部門の年間売上は1,000万円に達している。同じく34年には県外漁場の開拓にもり出し、岡山県笠岡市白石島に笠岡真珠有限会社資本金200万を設置、5万坪の漁場を設定、同35年島根県隠岐島西郷湾に周年漁場5万坪を設置、現在では的矢、笠岡、隠岐の各漁場を独立採算制とし、三漁場合せて漁場面積30万坪、筏台数580台、作業員数60万、従業員100名となっている。一方養蠔業も真珠と併行して行い、昭和28年紫外線殺菌法による無菌ガキの出荷をはじめた矢無菌ガキの名声は高い。現在年1,000万円を売上げている。

社 歴

大正 9年： 佐
藤忠勇氏の矢
湾真珠株式会
社常務取締役
に就任

本社 東京
支社 三重県
的矢

資本金 10万

昭和 3年： 同
社解散

昭和 3年： 垂下式養蠔業に着業

〳 5年： 的矢湾養蠔研究所を設立(研究会々報第4巻3号、通巻22号に記載)

〳 24年： 真珠養殖業に着業

〳 31年： 有限会社佐藤養殖場発足

本 社 的 矢

資 本 金 300万

〳 34年： 有限会社 佐藤を設立 加工部門の拡充

本 社 東京

資 本 金 150万

〳 〳： 笠岡真珠有限会社を設立

本 社 岡山県笠岡市

資 本 金 200万

〳 35年： 島根県隠岐島西郷湾に養殖場を設置、現在に至る



的 矢 漁 場 の 基 地 筏

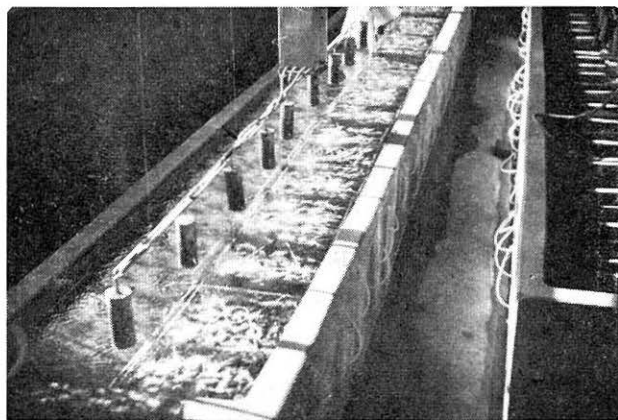
(二) 現 況

佐藤養殖場の漁場面積は的矢、笠岡、隠岐の三漁場を合せて約30万坪、筏台数 580 台に及ぶ。漁場別には的矢 180 台、笠岡 200 台、隠岐 200 台の割合であるが、主力漁場はあくまでの矢漁場であり、ここは基地漁場兼仕上漁場として使用されている。

近年の密殖による漁場の老化現象から逃れる事は出来ないが現在でも他の二漁場よりは優秀である。的矢での作業は4月下旬～7月上旬まで行われ、主として7、8ミリ主力の作業が行われる。水温の変化は 10°C ～ 30°C で夏場に高くないのが特徴でもある。



的 矢 漁 場 の 核 入 作 業



カ キ 浄 化 装 置

生産される珠は主としてピンク系であるが、多少グリーンをおびる傾向がある。

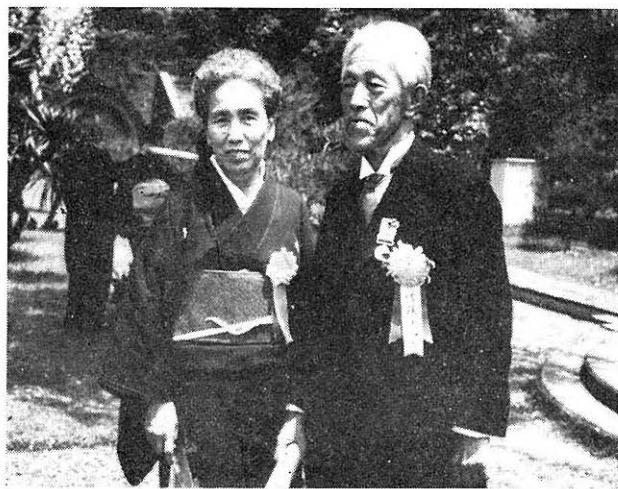
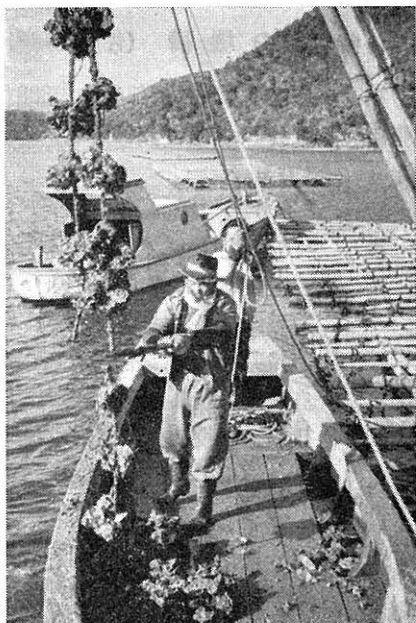
的矢の避寒漁場としては三重県古和浦漁場、二木島漁場が利用されている。

笠岡漁場も基地漁場兼仕上漁場であり、主と

して7、8ミリの珠が生産され、その避寒漁場としては和歌山県田辺湾の漁場が利用されている。

昭和35年に設置された島根県隠岐島西郷湾の漁場は、対馬暖流の影響をうける為、周年漁場として利用出来る特徴を有し、ここでは主として6,7ミリの珠が生産されている。佐藤養殖場の特徴として上げられるのは、その経営の多角化と販売力の強力さにあると云える。的矢漁場に於いては養蠣業と真珠養殖業を併用して行い、夏場は真珠、冬場はカキと非常に合理的経営を行い、又その研究陣は非常に豊かであり、たえず業界に一步先んじていると云える。現在研究所の活動も佐藤忠勇所長のもとに積極的であり、密殖の問題、寄生虫ポリキータの問題、無菌海水によるア

カ
キ
の
採
集
状
況



佐藤忠勇氏夫妻 (37. 5. 30. 於首相官邸 藍綬褒章受賞記念)

コヤ貝仔虫の培養と話題は豊富である。特に氏の35年余に亘る調査結果“的矢湾の海洋学的研究”は類例を見ない貴重な論文である。37年5月同氏が真珠業界ではじめての“藍綬褒章”に輝いたのは、この多年のカキ、真珠、について

の功績を認められたからに他ならない。

(三) 会 社 の 機 構 (佐藤養殖場)

本 社	三重県志摩郡磯部町の矢888番地
伊勢出張所	伊勢市辻久留町200番地
資 本 金	3 0 0 万
筏 台 数	3 8 0 台
従 業 員	6 0 名
養 殖 場	三重県志摩郡磯部町の矢 仕上漁場、基地漁場 三重県南島町古和浦 避寒漁場 三重県熊野市二木島 避寒漁場 島根県隠岐郡西郷 仕上漁場、基地漁場
重 役	代表取締役社長 佐 藤 忠 揚 取 締 役 佐 藤 忠 勇 〃 竹 中 喜 久 三 〃 阿 山 多 喜 也 〃 谷 岡 健 一 〃 乾 碩 也 監 査 役 乾 英 夫



真珠養殖業事務について

税 理 士 伊 原 良 作

真珠養殖設備の固定資産耐用年数が改正せられ取扱いに疑問を生じたので、去る日税理士会の席上で質問を出しました処、下記のように伊勢税務署より回答を得ました。今後法人個人共決算及び確定申告届に当つて直接関係があるものと存じますから御参考までにお知らせ致します。

質問 固定資産の耐用年数中 876 真珠養殖設備、竹製わくを使用するもの 3 年
その他のわくを使用するもの 5 年と改正せられたが、両者吊下する設備は危険度の関係にて吊下の数に於て制限こそすれ全く同一種類のものを吊下して居る。又そのものは作業上常に相互異動していて、区分不可能の実態であるのに耐用年数を区分せられた今後如何処理するや。

答 真珠養殖設備のうち竹製わくを使用するものとその他のわくを使用するものとに区分するのであるから、当初において資産を区分しておけば、仮にその後相互に吊下げの籠等が異動しても問題がない。

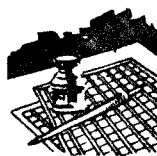
質問 竹筏の竹及び吊下のクレモナ、ナイロン製ネット類は、価額 300 円以下であつて、事実上一ケ年の使用に耐えない消耗資材として処理して支障ないか。

答 真珠養殖設備であるから資産に計上すべきである。

質問 真珠養殖直接費の稚介、母介、作業介に原価構成費を配分する場合公平であり、且つ事実価額にふさわしく現われる一定の方法を御説示願いたい。

答 製造直接費等ではつきりと原価に計算される問題がないが、直接費、間接費等で共通費の場合籠数等から計算される（個数、貫数等の）累計の配分の基礎とするのが計算の統一性と明確、簡易さから考えて適しているように思われる。又たな卸し資産の評価方法は、総平均法が最も適している。

編 集 後 記



- ◎全真連指導部門の真珠技術研究会となつてからの第一巻第一号を皆さまの所にお送り致します。
- ◎内容的には従来我真珠研究会報と変わりませんので真珠研究会報の引続きと考えて通巻40号と致しました。
- ◎今年度より2ヶ月に一回、年6回の発刊を予定しておりますので次号は7月末に皆さまの所にお送り致します。
- ◎今回真珠に関する資料をまとめて集録致しました
- ◎今后とも会報についての御意見がありましたら全真連指導部宛お寄せ下さるようお願い申し上げます。

昭和37年6月15日発行

第1巻 第1号会報
(通巻第40号)

三重県伊勢市岩淵町84番地ノ2
真珠会館内

発行所 全国真珠養殖漁業協同組合連合会
電話(伊勢局代表)4147番

編集責任者 浜 本 忠 史

三重県伊勢市岩淵町140

印刷所 神都印刷株式会社
電話(伊勢局)2230番

伊勢真珠資材同業会

(アルファベット順)

株式会社 平本末次郎商店

伊勢市駅前大鳥居通
電話 伊勢 ⑧ 6,512・6,629

石川商工株式会社

伊勢市駅前大鳥居通
電話 伊勢 ⑧ 5,165～6

丸富宮崎株式会社

伊勢市駅前大鳥居通
電話伊勢⑧5,101～3(夜間⑧3,678)

森 商 会

伊勢市外御園村王中島
電話 伊勢 ⑧ 4,448

三協商事株式会社

伊勢市吹上町
電話 伊勢 ⑧ 2,938・4,896

佐々木木工有限会社

三重県度会郡小俣町(宮川駅前)
電話 伊勢 ⑧ 4,369・4,444

竹村漁網有限会社

伊勢市河崎町
電話 伊勢 ⑧ 4,118～9